

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

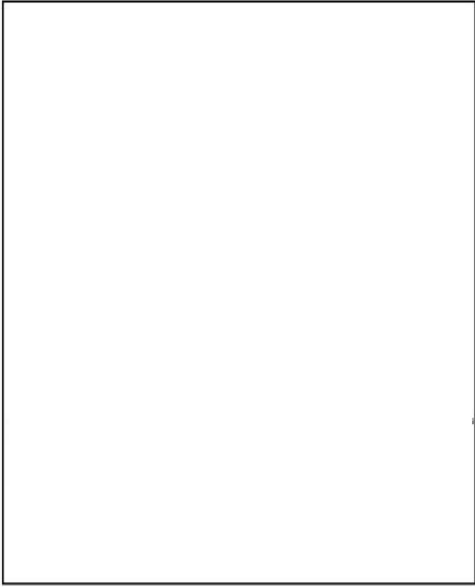

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>2.3 スクラバ水の逆流防止 フィルタ装置内の金属フィルタの差圧が大きい場合、金属フィルタドレン配管内の水位が上昇し、金属フィルタにスクラバ水が流入する可能性がある。 金属フィルタにスクラバ水が到達すると、金属フィルタの通気有効表面積が減少し、フィルタ装置金属フィルタ差圧がさらに上昇する。 そのため、フィルタ装置金属フィルタ差圧が急上昇し、さらに金属フィルタドレン配管よりスクラバ水が吸い上げられ、スクラバ水は金属フィルタの二次側に吸い出されてしまう。 フィルタ装置の設計では、金属フィルタの設計上限差圧は□ kPaに設定しており、フィルタ装置金属フィルタ差圧が□ kPaの時、金属フィルタドレン配管内水位はスクラバ水位□ mとなる。 そのため、ドレン配管から金属フィルタにスクラバ水が流入しないよう、金属フィルタ下端から下方約□ mの位置（スクラバノズル上端+2.2m）にスクラバ水の水位上限を設定している。</p> <p>なお、通常待機時、ベント実施時を通して、フィルタ装置の水位はフィルタ装置水位により監視し、水位が上限水位となる前に排水する運用とする。また、金属フィルタのドレン配管の内径は□ mmであり、金属フィルタに流入するベントガスに含まれるエアロゾルの粒径は極めて小さい□ ことから、ドレン配管の閉塞が発生するおそれはない。 フィルタ装置のスクラバ水位の概要を図2.3-1に示す。</p>	<p>2.3 スクラバ水の逆流防止 フィルタ装置内の金属フィルタの差圧が大きい場合、金属フィルタドレン配管内の水位が上昇し、金属フィルタにスクラバ水が流入する可能性がある。 金属フィルタにスクラバ水が到達すると、金属フィルタの通気有効表面積が減少し、フィルタ装置金属フィルタ差圧がさらに上昇する。 そのため、フィルタ装置金属フィルタ差圧が急上昇し、さらに金属フィルタドレン配管よりスクラバ水が吸い上げられ、スクラバ水は金属フィルタの二次側に吸い出されてしまう。 フィルタ装置の設計では、金属フィルタの設計上限差圧は□ kPaに設定しており、フィルタ装置金属フィルタ差圧が□ kPaの時、金属フィルタドレン配管内水位はスクラバ水位□ mとなる。 そのため、ドレン配管から金属フィルタにスクラバ水が流入しないよう、金属フィルタ下端から下方約□ mの位置（スクラバノズル上端+2.2m）にスクラバ水の水位上限を設定している。</p> <p>なお、通常待機時、ベント実施時を通して、フィルタ装置の水位はフィルタ装置水位により監視し、水位が上限水位となる前に排水する運用とする。また、金属フィルタのドレン配管の内径は□ mmであり、金属フィルタに流入するベントガスに含まれるエアロゾルの粒径は極めて小さい□ ことから、ドレン配管の閉塞が発生するおそれはない。 フィルタ装置のスクラバ水位の概要を図2-7に示す。</p>	<p>備考</p> <p>・記載の適正化 (図表番号の相違)</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	 <p style="text-align: center;">図2-3-1 フィルタ装置のスタックレベル</p>	 <p style="text-align: center;">図2-7 フィルタ装置のスタックレベル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載の適正化 (図表番号の相違) ・記載方針の差異【島根との差異】

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
			・記載方針の差異【島根との差異】

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

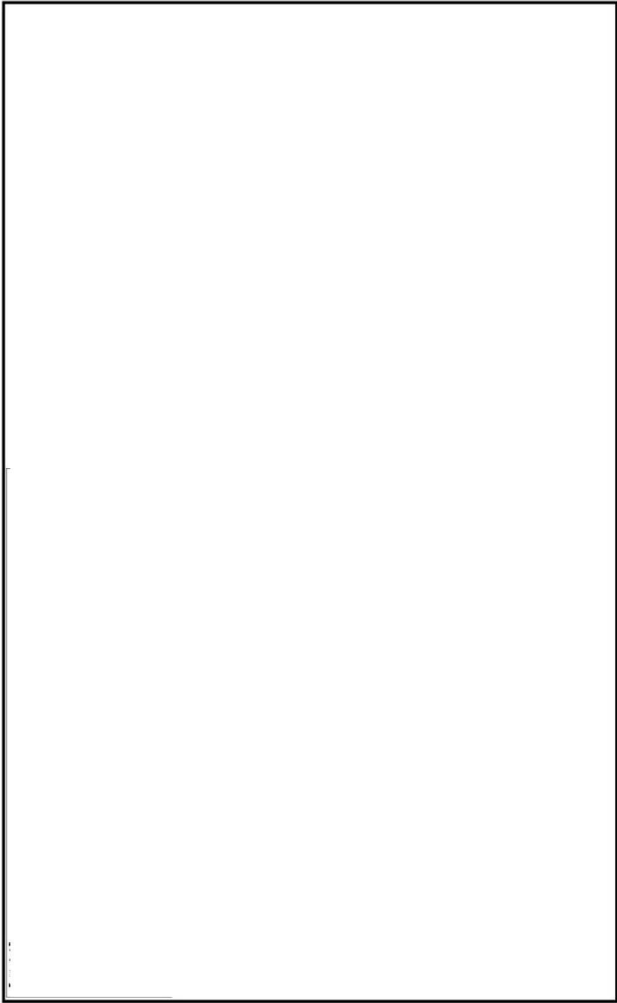

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p style="text-align: right;">別紙5</p> <p>格納容器圧力逃がし装置隔離弁の人力操作について</p> <p>1. 格納容器圧力逃がし装置隔離弁の人力操作 格納容器圧力逃がし装置の隔離弁は、中央制御室からの操作ができない場合には、現場の隔離弁操作場所から遠隔手動弁操作設備及び遠隔空気駆動弁操作設備を介して弁操作を実施する。ベントに必要な弁の位置と操作場所について、図1-1に示す。 空気駆動弁については、遠隔手動弁操作設備により人力で操作可能な設計とする。また、遠隔空気駆動弁操作設備によりポンベの空気を手動で駆動シリンダへ供給することで容易に遠隔操作ができる設計とする。</p> <p>電動駆動弁については、駆動部に遠隔手動弁操作設備を設け、人力にて容易に遠隔操作ができる設計とする。</p> <p>なお、遠隔手動弁操作設備及び遠隔空気駆動弁操作設備による操作は、原子炉建屋内の原子炉区域外から実施可能であり、重大事故等時の作業員の放射線防護を考慮した設計とする。</p>	<p style="text-align: right;">別紙5</p> <p>格納容器圧力逃がし装置隔離弁の人力操作について</p> <p>1. 格納容器圧力逃がし装置隔離弁の人力操作 格納容器圧力逃がし装置の隔離弁は、中央制御室からの操作ができない場合には、現場の隔離弁操作場所から遠隔手動弁操作設備及び遠隔空気駆動弁操作設備を介して弁操作を実施する。ベントに必要な弁の位置と操作場所について、図1-1に示す。 <u>空気駆動弁については、遠隔手動弁操作設備により人力で操作可能な設計とする。また、遠隔空気駆動弁操作設備によりポンベの窒素ガス又は空気を手動で駆動シリンダへ供給することで容易に遠隔操作ができる設計とする。</u> 電動駆動弁については、駆動部に遠隔手動弁操作設備を設け、人力にて容易に遠隔操作ができる設計とする。</p> <p>なお、遠隔手動弁操作設備及び遠隔空気駆動弁操作設備による操作は、原子炉建屋内の原子炉区域外から実施可能であり、重大事故等時の作業員の放射線防護を考慮した設計とする。</p>	<p>・設備構成の差異【島根との差異】 （島根2号機の排出経路に設置される隔離弁は、電動弁のみ。） ・記載の適正化 （実運用に合わせてポンベ流体の記載を追加した。）</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

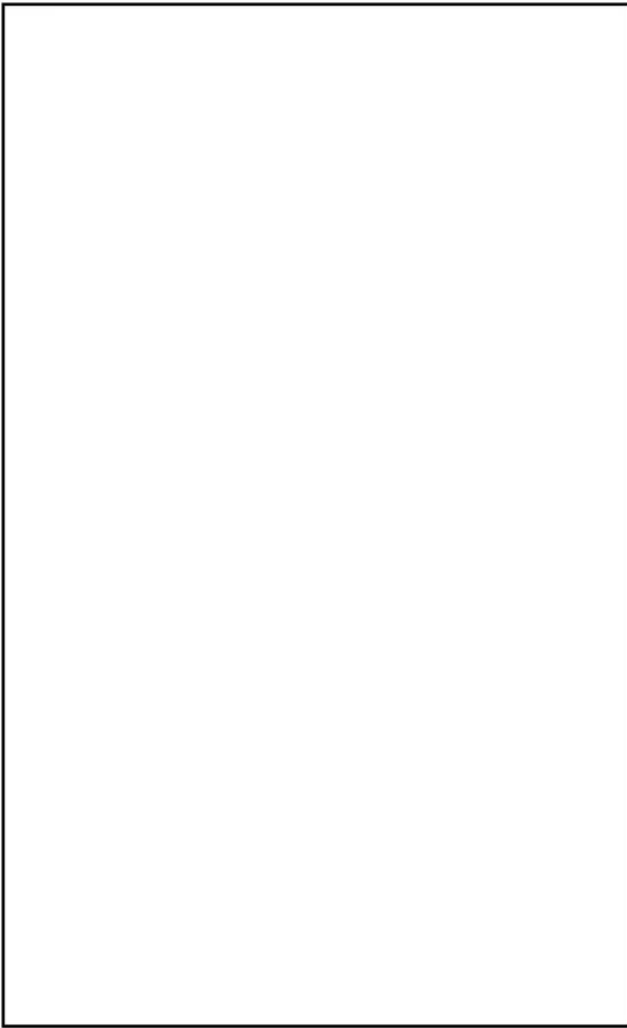
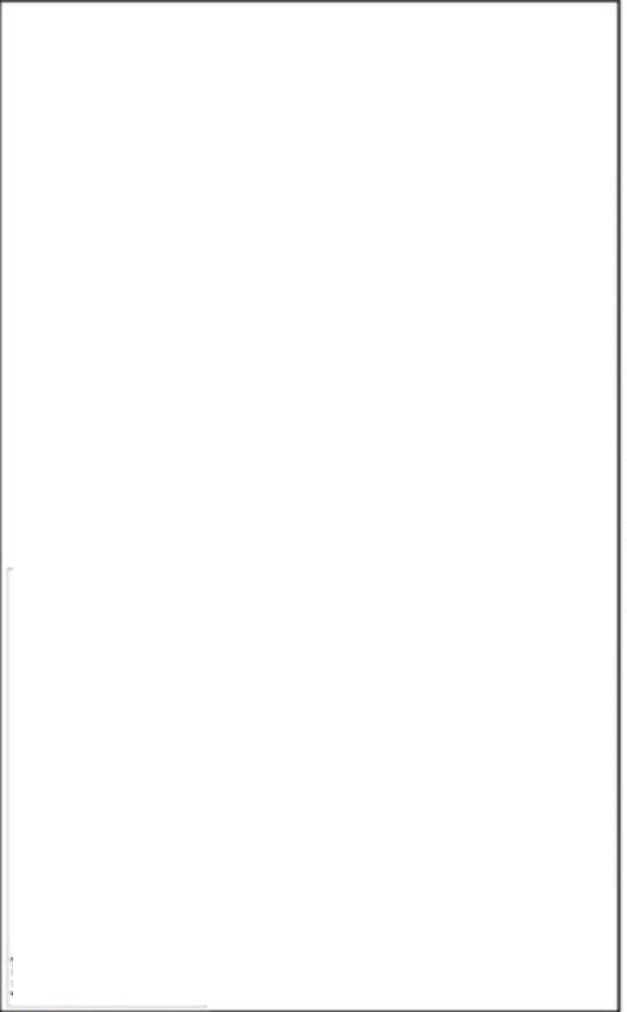
先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	 <p style="text-align: center; font-size: small;">図1-1 隔離弁の操作場所（1/3）</p>	 <p style="text-align: center; font-size: small;">図1-1 隔離弁の操作場所（1/3）</p>	<p>・設備構成の差異</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	 <p style="text-align: center;">図1-1 隔離弁の操作場所 (2/3)</p>	 <p style="text-align: center;">図1-1 隔離弁の操作場所 (2/3)</p>	<p>・設備構成の差異</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p style="text-align: center;">図1-1 隔離弁の操作場所 (3/3)</p>	<p style="text-align: center;">図1-1 隔離弁の操作場所 (3/3)</p>	<p>・設備構成の差異</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p style="text-align: right;">別紙6</p> <p>ベント実施に伴う現場作業の被ばく評価について</p> <p>ベント実施に伴う現場作業は放射線環境下での作業となることから、作業の成立性を確認するために、各作業の被ばく評価を実施する。なお、中央制御室又は現場のいずれにおいても同等の操作が可能な場合については、高線量環境が予想される現場での作業線量のみについて記載する。</p> <p>評価に当たっては、「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド（平成25年6月19日 原規技発第13061918号 原子力規制委員会決定）」（以下「審査ガイド」という。）を参照した。</p> <p>1. 想定する作業と作業時間帯、作業エリア 評価対象は、ベント実施に伴う作業とする。ベントの実施前及び実施後における作業の作業場所、作業時間帯及び評価時間を表1-1 及び図1-1～図1-5 に示す。また、図1-6～図1-11 に各評価時間の設定根拠を示す。</p> <p>各作業の評価時間には、作業場所への往復時間を含める。</p> <p>ベント実施後の屋外の各作業の往復時間における被ばく評価に当たっては、移動中における線量率が、作業場所（線源となるよう素フィルタ等の近傍）における線量率よりも小さいことを考慮し、作業場所よりも線量影響が小さい場所を評価点とした。</p> <p>ベント実施前の屋外及び屋内の各作業の被ばく評価に当たっては、移動時間も含めて、作業場所を代表評価点とした。ただし、フィルタベント大気放出ラインドレン弁の閉操作の被ばく評価に当たっては、移動中は屋内、作業中は屋外にいるものとして評価した。</p> <p>2. 想定シナリオ 想定シナリオは以下のとおりとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発災プラント：7号機 ・ 想定事象：大破断LOCA+ECCS 注水機能喪失+全交流動力電源喪失 ・ 2 ケースについて評価 <p>-事象発生約38 時間後にW/W ベントを実施するケース</p> <p>-事象発生約38 時間後にD/W ベントを実施するケース</p>	<p style="text-align: right;">別紙6</p> <p>ベント実施に伴う現場作業の被ばく評価について</p> <p>ベント実施に伴う現場作業は放射線環境下での作業となることから、作業の成立性を確認するために、各作業の被ばく評価を実施する。なお、中央制御室又は現場のいずれにおいても同等の操作が可能な場合については、高線量環境が予想される現場での作業線量のみについて記載する。</p> <p>評価に当たっては、「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価に関する審査ガイド（平成25年6月19日 原規技発第13061918号 原子力規制委員会決定）」（以下「審査ガイド」という。）を参照した。</p> <p>1. 想定する作業と作業時間帯、作業エリア 評価対象は、ベント実施に伴う作業とする。ベントの実施前及び実施後における作業の作業場所、作業時間帯及び評価時間を表1-1 及び図1-1～図1-6 に示す。また、図2-1～図2-6 に各評価時間の設定根拠を示す。</p> <p>各作業の評価時間には、作業場所への往復時間を含める。</p> <p>ベント実施後の屋外の各作業の往復時間における被ばく評価に当たっては、移動中における線量率が、作業場所（線源となるよう素フィルタ等の近傍）における線量率よりも小さいことを考慮し、作業場所よりも線量影響が小さい場所を評価点とした。</p> <p>ベント実施前の屋外及び屋内の各作業の被ばく評価に当たっては、移動時間も含めて、作業場所を代表評価点とした。ただし、フィルタベント大気放出ラインドレン弁の閉操作の被ばく評価に当たっては、移動中は屋内、作業中は屋外にいるものとして評価した。</p> <p>2. 想定シナリオ 想定シナリオは以下のとおりとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発災プラント：6号及び7号機 ・ 想定事象：大破断LOCA+ECCS 注水機能喪失+全交流動力電源喪失 ・ 2 ケースについて評価 <p>-ケース① 6号機：事象発生約38 時間後にW/W ベントを実施 7号機：代替循環冷却系により事象収束に成功(ベント無し)</p> <p>-ケース② 6号機：事象発生約38 時間後にD/W ベントを実施</p>	<p>・ 記載の適正化 (図表番号の相違)</p> <p>・ 評価条件の差異</p> <p>・ 評価条件の差異</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>3. 放出放射エネルギー 大気中への放出放射エネルギーは、V-1-7-3「中央制御室の居住性に係る説明書」と同様の評価方法にて評価した。ただし、D/W ベント時においては、ベントライン経由で放出される無機物素に対し、サブプレッションプールのスクラビング効果を見込まないものとした。評価結果を表3-1から表3-2に示す。また、放射性物質の大気放出過程を図3-1～図3-4に示し、大気放出過程概略図を図3-5に示す。</p> <p>4. 大気拡散評価 大気拡散評価の条件は、評価点、着目方位、実効放出継続時間を除き、V-1-7-3「中央制御室の居住性に係る説明書」と同じとした。V-1-7-3「中央制御室の居住性に係る説明書」との差異となる評価条件を表4-1に示す。 放射性物質の大気拡散評価の評価結果を表4-2に示す。この大気拡散評価の評価結果を、本別紙のすべての現場作業の被ばく評価に適用する。 なお、表4-2で示した評価結果は、着目方位を全方位（16方位）とし、評価距離を放出点から10m刻みとした大気拡散評価において、最大の評価結果を与えた距離の評価結果である。このため、表4-2に示す相対濃度及び相対線量は、作業エリア全域に対し、保守的な結果を与えることとなる。</p>	<p>7号機：代替循環冷却系により事象収束に成功（ベント無し）</p> <p>3. 放出放射エネルギー 大気中への放出放射エネルギーは、VI-1-7-3「中央制御室の居住性に関する説明書」と同様の評価方法にて評価した。ただし、D/W ベント時においては、ベントライン経由で放出される無機物素に対し、サブプレッションプールのスクラビング効果を見込まないものとした。評価結果を表2-1から表2-3に示す。また、放射性物質の大気放出過程を図3-1～図3-4に示し、大気放出過程概略図を図3-5に示す。</p> <p>4. 大気拡散評価 大気拡散評価の条件は、評価点、着目方位及び実効放出継続時間を除き、VI-1-7-3「中央制御室の居住性に関する説明書」と同じとした。VI-1-7-3「中央制御室の居住性に関する説明書」との差異となる評価条件を表3-1に示す。 放射性物質の大気拡散評価の評価結果を表3-2に示す。この大気拡散評価の評価結果を、本別紙のすべての現場作業の被ばく評価に適用する。 なお、表3-2で示した評価結果は、着目方位を全方位（16方位）とし、評価距離を放出点から10m刻みとした大気拡散評価において、最大の評価結果を与えた距離の評価結果である。このため、表3-2に示す相対濃度及び相対線量は、作業エリア全域に対し、保守的な結果を与えることとなる。</p>	<p>・図書構成の差異 （7号機と図書番号が異なるため。）</p> <p>・記載の適正化 （図表番号の相違）</p> <p>・記載の適正化 ・図書構成の差異 （7号機と図書番号が異なるため。）</p> <p>・記載の適正化 （図表番号の相違）</p> <p>・記載の適正化 （図表番号の相違）</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>5. 評価経路 被ばく経路の概念図を図5-1及び図5-2に示す。</p> <p>6. 評価方法 (1)原子炉建屋外での作業 a. 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく 原子炉建屋内の放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による実効線量は、原子炉建屋内の放射性物質の積算線源強度、施設的位置、遮蔽構造、評価点の位置等を踏まえて評価した。直接ガンマ線は解析コード「QAD-CGGP2R」を用い、スカイシャインガンマ線は解析コード「ANISN」及び解析コード「G33-GP2R」を用いて評価した。</p> <p>b. 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばく 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に大気拡散効果を踏まえ評価した。</p> <p>c. 放射性雲中の放射性物質を吸入摂取することによる被ばく 放射性雲中の放射性物質を吸入摂取することによる内部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量及び大気拡散効果を踏まえ評価した。なお、評価に当たってはマスクの着用を考慮した。</p> <p>d. 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に、大気拡散効果、地表面沈着効果を踏まえて評価した。</p> <p>e. 格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及び配管並びによろ素フィルタ内の放射性物質からのガンマ線による被ばく 格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及び配管並びによろ素フィルタ内の放射性物質による作業エリアでの被ばくは、放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による実効線量を、作業エリアの位置、線源の位置及び形状並びに線源を囲む壁等によるガンマ線の遮蔽効果を考慮して評価した。直接ガンマ線の評価には、解析コード「QAD-CGGP2</p>	<p>5. 評価経路 被ばく経路の概念図を図4-1及び図4-2に示す。</p> <p>6. 評価方法 (1)原子炉建屋外での作業 a. 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく 原子炉建屋内の放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による実効線量は、原子炉建屋内の放射性物質の積算線源強度、施設的位置、遮蔽構造、評価点の位置等を踏まえて評価した。直接ガンマ線は解析コード「QAD-CGGP2R」を用い、スカイシャインガンマ線は解析コード「ANISN」及び解析コード「G33-GP2R」を用いて評価した。</p> <p>b. 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばく 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に大気拡散効果を踏まえ評価した。</p> <p>c. 放射性雲中の放射性物質を吸入摂取することによる被ばく 放射性雲中の放射性物質を吸入摂取することによる内部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量及び大気拡散効果を踏まえ評価した。なお、評価に当たってはマスクの着用を考慮した。</p> <p>d. 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に、大気拡散効果、地表面沈着効果を踏まえて評価した。</p> <p>e. 格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及び配管並びによろ素フィルタ内の放射性物質からのガンマ線による被ばく 格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及び配管並びによろ素フィルタ内の放射性物質による作業エリアでの被ばくは、放射性物質からの直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線による実効線量を、作業エリアの位置、線源の位置及び形状並びに線源を囲む壁等によるガンマ線の遮蔽効果を考慮して評価した。直接ガンマ線の評価には、解析コード「QAD-CGGP2</p>	<p>・記載の適正化 (図表番号の相違)</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>R」を用い、スカイシャインガンマ線の評価には、解析コード「QAD-CGGP2R」及び解析コード「G33-GP2R」を用いた。</p> <p>線源としては、よう素フィルタ、金属フィルタ、スクラバ水、主配管（フィルタ装置入口側）、ドレン移送ライン及びpH計装配管内の放射性物質を考慮した。各線源の評価で想定する放射性物質の付着割合を表6-1に示す。</p> <p>ここで、ドレン移送ラインとpH計装配管による寄与については、作業者が当該線源に近接することを考慮して評価を実施した。具体的には、ドレン移送ラインによる寄与については、図1-5で示した評価点の結果と、評価点をドレン移送ラインの近接位置とした場合の評価結果を足し合わせて算出した。また、pH計装配管による寄与については、pH計装配管がフィルタベント遮蔽壁附室内の設備であることを考慮し、図1-5で示した評価点における被ばく線量は評価せず、評価点をpH計装配管の近接位置とした場合の評価のみ実施した。各作業の内容を考慮し、ドレン移送ライン及びpH計装配管への近接時間として評価上想定した時間を表6-2に示す。</p> <p>なお、保守的に、ドレン移送ライン及びpH計装配管ともに、ベント後は常に放射性物質を含む水を内包すると想定した。</p> <p>(2)原子炉建屋内での作業 a. 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばくは、「作業エリア内の放射性物質からのガンマ線による被ばく」と「二次格納施設内の放射性物質からのガンマ線による被ばく」を評価した。 作業エリア内の放射性物質からのガンマ線による被ばくは、作業エリアの放射性物質濃度が外気と同濃度*になると仮定し、サブマージョンモデルの評価式を用いて評価した。なお、サブマージョンモデルでの計算に用いる空間容積は、7号機の一次隔離弁、二次隔離弁及びSGTS側PCVベント用水素ガスベント止め弁の作業エリア空間容積を包絡する値 を設定した。 二次格納施設内の放射性物質からのガンマ線については、原子炉建屋内の放射性物質の積算線源強度、遮蔽構造、評価点の位置等を踏まえて評価した。評価には解析コード「QAD-CGGP2R」を用いた。</p>	<p>R」を用い、スカイシャインガンマ線の評価には、解析コード「QAD-CGGP2R」及び解析コード「G33-GP2R」を用いた。</p> <p>線源としては、よう素フィルタ、金属フィルタ、スクラバ水、主配管（フィルタ装置入口側）、ドレン移送ライン及びpH計装配管内の放射性物質を考慮した。各線源の評価で想定する放射性物質の付着割合を表4-1に示す。</p> <p><u>ここで、ドレン移送ラインとpH計装配管による寄与については、作業者が当該線源に近接することを考慮して評価を実施した。</u>具体的には、ドレン移送ラインによる寄与については、図1-6で示した評価点の結果と、評価点をドレン移送ラインの近接位置とした場合の評価結果を足し合わせて算出した。また、pH計装配管による寄与については、pH計装配管がフィルタベント遮蔽壁附室内の設備であることを考慮し、図1-6で示した評価点における被ばく線量は評価せず、評価点をpH計装配管の近接位置とした場合の評価のみ実施した。各作業の内容を考慮し、ドレン移送ライン及びpH計装配管への近接時間として評価上想定した時間を表4-2に示す。</p> <p>なお、保守的に、ドレン移送ライン及びpH計装配管ともに、ベント後は常に放射性物質を含む水を内包すると想定した。</p> <p>(2)原子炉建屋内での作業 a. 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばく 原子炉建屋内の放射性物質からのガンマ線による被ばくは、「作業エリア内の放射性物質からのガンマ線による被ばく」と「二次格納施設内の放射性物質からのガンマ線による被ばく」を評価した。 作業エリア内の放射性物質からのガンマ線による被ばくは、作業エリアの放射性物質濃度が外気と同濃度*になると仮定し、サブマージョンモデルの評価式を用いて評価した。なお、サブマージョンモデルでの計算に用いる空間容積は、6号機の一次隔離弁、二次隔離弁及びSGTS側PCVベント用水素ガスベント止め弁の作業エリア空間容積を包絡する値 を設定した。 二次格納施設内の放射性物質からのガンマ線については、原子炉建屋内の放射性物質の積算線源強度、遮蔽構造、評価点の位置等を踏まえて評価した。評価には解析コード「QAD-CGGP2R」を用いた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載の適正化 (図表番号の相違) ・設備構成及び運用の差異【島根との差異】 (島根2号機は、近接作業を想定していない。) ・記載の適正化 (図表番号の相違) ・記載の適正化 (図表番号の相違) ・記載の適正化 (図表番号の相違) ・記載の適正化 (図表番号の相違) ・記載の適正化 ・表現上の差異 (設備名称の差異)

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>b. 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばく 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に、大気拡散効果と建屋による遮蔽効果を踏まえて評価した。</p> <p>c. 原子炉建屋内に浮遊する放射性物質を吸入摂取することによる被ばく 原子炉建屋内に浮遊する放射性物質を吸入摂取することによる内部被ばくは、作業エリアの放射性物質濃度が外気と同濃度*になると仮定して評価した。なお、評価に当たってはマスクの着用を考慮した。</p> <p>d. 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、原子炉建屋外壁が十分厚いことから影響は軽微であるとし、評価の対象外とした。</p> <p>e. 格納容器圧力逃がし装置の配管内の放射性物質からのガンマ線による被ばく 原子炉建屋内の配管内の放射性物質からのガンマ線による作業エリアでの被ばくは、配管内の放射性物質からの直接ガンマ線による実効線量を、作業エリアの位置、配管の位置及び形状並びに作業エリアを囲む壁等によるガンマ線の遮蔽効果を考慮し、評価した。評価に当たっては、解析コード「QAD-CGGP2R」を用いた。 なお、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及びよう素フィルタ並びに屋外の配管内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、原子炉建屋外壁が十分厚いことから影響は軽微であるとし、評価の対象外とした。また、原子炉建屋内の配管においても、配管と作業エリアとの間に十分厚い遮蔽が存在する場合は、影響は軽微であるとし評価の対象外とした。</p> <p>注記*：ベント実施時に原子炉建屋屋上から放出されたベント流体は、熱エネルギーを持つため放出後に上昇し、さらに風の影響を受け原子炉建屋から時間と共に離れてゆくものと考えられる。また、ベント流体の放出口（地上39.7m）と一次隔離弁の開操作場所（W/W ベント時：□ D/W ベント時：□）</p>	<p>b. 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による被ばく 放射性雲中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、事故期間中の大気中への放射性物質の放出量を基に、大気拡散効果と建屋による遮蔽効果を踏まえて評価した。</p> <p>c. 原子炉建屋内に浮遊する放射性物質を吸入摂取することによる被ばく 原子炉建屋内に浮遊する放射性物質を吸入摂取することによる内部被ばくは、作業エリアの放射性物質濃度が外気と同濃度*になると仮定して評価した。なお、評価に当たってはマスクの着用を考慮した。</p> <p>d. 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による被ばく 地表面に沈着した放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、原子炉建屋外壁が十分厚いことから影響は軽微であるとし、評価の対象外とした。</p> <p>e. 格納容器圧力逃がし装置の配管内の放射性物質からのガンマ線による被ばく 原子炉建屋内の配管内の放射性物質からのガンマ線による作業エリアでの被ばくは、配管内の放射性物質からの直接ガンマ線による実効線量を、作業エリアの位置、配管の位置及び形状並びに作業エリアを囲む壁等によるガンマ線の遮蔽効果を考慮し、評価した。評価に当たっては、解析コード「QAD-CGGP2R」を用いた。 なお、格納容器圧力逃がし装置のフィルタ装置及びよう素フィルタ並びに屋外の配管内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばくは、原子炉建屋外壁が十分厚いことから影響は軽微であるとし、評価の対象外とした。また、原子炉建屋内の配管においても、配管と作業エリアとの間に十分厚い遮蔽が存在する場合は、影響は軽微であるとし評価の対象外とした。</p> <p>注記*：ベント実施時に原子炉建屋屋上から放出されたベント流体は、熱エネルギーを持つため放出後に上昇し、さらに風の影響を受け原子炉建屋から時間と共に離れてゆくものと考えられる。また、ベント流体の放出口（地上40.4m）と一次隔離弁の開操作場所（W/W ベント時：□ D/W ベント時：□）</p>	<p>備考</p> <p>・設備構成の差異 （放出口高さの相違）</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>は少なくとも30m程度の高低差があることから、放出されたベント流体が一次隔離弁の開操作場所に直接流入することはほとんど無いものと考えられる。このことから、一次隔離弁の開操作に伴う被ばくの評価においては、ベント流体が原子炉建屋内に流入することによる影響を考慮しないものとした。</p> <p>7. 評価条件 大気中への放出量及び大気拡散評価以外に関する主な評価条件を表7-1に示す。</p> <p>8. 評価結果 W/W ベントの実施前及び実施後の作業における被ばく線量の評価結果を表8-1に示す。また、D/W ベントの実施前及び実施後の作業における被ばく線量の評価結果を表8-2に示す。 最も被ばく線量が大きくなる作業においては約81mSvとなった。したがって、緊急時作業に係る線量限度100mSvに照らしても、作業可能であることを確認した。</p>	<p>は少なくとも30m程度の高低差があることから、放出されたベント流体が一次隔離弁の開操作場所に直接流入することはほとんど無いものと考えられる。このことから、一次隔離弁の開操作に伴う被ばくの評価においては、ベント流体が原子炉建屋内に流入することによる影響を考慮しないものとした。</p> <p>7. 評価条件 大気中への放出量及び大気拡散評価以外に関する主な評価条件を表5-1に示す。</p> <p>8. 評価結果 W/W ベントの実施前及び実施後の作業における被ばく線量の評価結果を表6-1に示す。また、D/W ベントの実施前及び実施後の作業における被ばく線量の評価結果を表6-2に示す。 最も被ばく線量が大きくなる作業においては約90mSvとなった。したがって、緊急時作業に係る線量限度100mSvに照らしても、作業可能であることを確認した。</p>	<p>・プラント固有条件の差異【島根との差異】 （島根2号機は、ベント実施時の操作場所付近に、非常用ガス処理系フィルタが設置されているため、線源として考慮している。）</p> <p>・記載の適正化 （図表番号の相違）</p> <p>・記載の適正化 （図表番号の相違）</p> <p>・評価結果の差異</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>なお、表8-1及び表8-2の評価結果は、表1-1に示す各作業の作業開始時間の範囲のうち、評価結果が大きくなる時間帯*1で作業を実施した場合の被ばく線量となり、被ばく評価の保守性も踏まえると、表1-1に示す各作業の作業開始時間の範囲のいずれの時間帯においても作業は可能であると考えられる*2。</p> <p>また、炉心損傷前ベント後に炉心損傷の兆候が見られた場合における隔離弁の閉操作等の作業については、当該作業に係る被ばく線量が、炉心損傷後のベントに伴う作業時の被ばくに包含されるものと考えられるため、作業可能である。</p> <p>注記*1： 支配的な被ばく経路の線量率トレンドを基に推測する。なお、ベント後においては、よう素フィルタからの寄与が支配的であり、ベントからの時間経過が短いほど、放射性物質の減衰が小さく、評価結果が大きくなる。</p> <p>*2： 本被ばく評価では、非常用ガス処理系が停止した時点で、二次格納施設の換気率は無限大[回/日]となり、それまで二次格納施設内に閉じ込められていた放射性物質が一瞬にして屋外に放出されるという想定をしている。そのため、非常用ガス処理系の停止直後において、屋内及び屋外の作業環境は非常に厳しいものになるが、被ばく評価に当たって、この期間における作業実施を想定することは過度に保守的であると考えられる。したがって、非常用ガス処理系が停止してから5分間は評価対象期間外とした。</p>	<p>なお、表6-1及び表6-2の評価結果は、表1-1に示す各作業の作業開始時間の範囲のうち、評価結果が大きくなる時間帯*1で作業を実施した場合の被ばく線量となり、被ばく評価の保守性も踏まえると、表1-1に示す各作業の作業開始時間の範囲のいずれの時間帯においても作業は可能であると考えられる*2。</p> <p>また、炉心損傷前ベント後に炉心損傷の兆候が見られた場合における隔離弁の閉操作等の作業については、当該作業に係る被ばく線量が、炉心損傷後のベントに伴う作業時の被ばくに包含されるものと考えられるため、作業可能である。</p> <p>注記*1： 支配的な被ばく経路の線量率トレンドを基に推測する。なお、ベント後においては、よう素フィルタからの寄与が支配的であり、ベントからの時間経過が短いほど、放射性物質の減衰が小さく、評価結果が大きくなる。</p> <p>*2： 本被ばく評価では、非常用ガス処理系が停止した時点で、二次格納施設の換気率は無限大[回/日]となり、それまで二次格納施設内に閉じ込められていた放射性物質が一瞬にして屋外に放出されるという想定をしている。そのため、非常用ガス処理系の停止直後において、屋内及び屋外の作業環境は非常に厳しいものになるが、被ばく評価に当たって、この期間における作業実施を想定することは過度に保守的であると考えられる。したがって、非常用ガス処理系が停止してから5分間は評価対象期間外とした。</p>	<p>・記載の適正化 (図表番号の相違)</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考																																								
	<p>表1-1 ベント実施前後の作業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">ベント実施前の作業</th> <th colspan="2">ベント実施後の作業</th> </tr> <tr> <th>フィルタバント</th> <th>二次循環中の ドレン移送 ポンプ水張り</th> <th>フィルタバント 水位調整 (水抜き)</th> <th>ドレン移送ライン 調整ガスバーグ 水抜き</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4時間後～ 約38時間後</td> <td>4時間後～ 約38時間後</td> <td>約38時間後～ 約57時間後</td> <td>約38時間後～ 約57時間後</td> </tr> <tr> <td>移動20分 作業5分</td> <td>移動20分 作業5分</td> <td>移動20分 作業40分</td> <td>移動20分 作業10分</td> </tr> <tr> <td>評価時間*</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：スクラバ水の制限水位到達時に時間余裕を考慮し、また、ベント実施後の作業環境を考慮して設定。 *2：ドレンタンク内凝縮水量の評価結果を参照。 *3：図1-6から図1-11に各評価時間の設定根拠を示す。評価時間には作業場所への往復時間を含め、タイムチャートに記載がない場合は片道10分と仮定した。 *4：作業時間のうち10分は高台での作業であることから、移動中の評価と同様に、作業場所よりも線量影響が小さい場所にいるものとして評価した。</p>	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業		フィルタバント	二次循環中の ドレン移送 ポンプ水張り	フィルタバント 水位調整 (水抜き)	ドレン移送ライン 調整ガスバーグ 水抜き	4時間後～ 約38時間後	4時間後～ 約38時間後	約38時間後～ 約57時間後	約38時間後～ 約57時間後	移動20分 作業5分	移動20分 作業5分	移動20分 作業40分	移動20分 作業10分	評価時間*				<p>表1-1 ベント実施前後の作業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">ベント実施前の作業</th> <th colspan="2">ベント実施後の作業</th> </tr> <tr> <th>フィルタバント</th> <th>二次循環中の ドレン移送 ポンプ水張り</th> <th>フィルタバント 水位調整 (水抜き)</th> <th>ドレン移送ライン 調整ガスバーグ 水抜き</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4時間後～ 約38時間後</td> <td>4時間後～ 約38時間後</td> <td>約38時間後～ 約57時間後</td> <td>約38時間後～ 約57時間後</td> </tr> <tr> <td>移動20分 作業5分</td> <td>移動20分 作業5分</td> <td>移動20分 作業40分</td> <td>移動20分 作業10分</td> </tr> <tr> <td>評価時間*</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：スクラバ水の制限水位到達時に時間余裕を考慮し、また、ベント実施後の作業環境を考慮して設定。 *2：ドレンタンク内凝縮水量の評価結果を参照。 *3：図2-1から図2-6に各評価時間の設定根拠を示す。評価時間には作業場所への往復時間を含め、タイムチャートに記載がない場合は片道10分と仮定した。 *4：作業時間のうち10分は高台での作業であることから、移動中の評価と同様に、作業場所よりも線量影響が小さい場所にいるものとして評価した。</p>	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業		フィルタバント	二次循環中の ドレン移送 ポンプ水張り	フィルタバント 水位調整 (水抜き)	ドレン移送ライン 調整ガスバーグ 水抜き	4時間後～ 約38時間後	4時間後～ 約38時間後	約38時間後～ 約57時間後	約38時間後～ 約57時間後	移動20分 作業5分	移動20分 作業5分	移動20分 作業40分	移動20分 作業10分	評価時間*				<p>備考</p> <p>・記載の適正化 (図表番号の相違)</p>
ベント実施前の作業		ベント実施後の作業																																									
フィルタバント	二次循環中の ドレン移送 ポンプ水張り	フィルタバント 水位調整 (水抜き)	ドレン移送ライン 調整ガスバーグ 水抜き																																								
4時間後～ 約38時間後	4時間後～ 約38時間後	約38時間後～ 約57時間後	約38時間後～ 約57時間後																																								
移動20分 作業5分	移動20分 作業5分	移動20分 作業40分	移動20分 作業10分																																								
評価時間*																																											
ベント実施前の作業		ベント実施後の作業																																									
フィルタバント	二次循環中の ドレン移送 ポンプ水張り	フィルタバント 水位調整 (水抜き)	ドレン移送ライン 調整ガスバーグ 水抜き																																								
4時間後～ 約38時間後	4時間後～ 約38時間後	約38時間後～ 約57時間後	約38時間後～ 約57時間後																																								
移動20分 作業5分	移動20分 作業5分	移動20分 作業40分	移動20分 作業10分																																								
評価時間*																																											

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考																																																																																																																																																																																				
	<p>表3-1 大気中への放出放射線量（7日間積算値） (W/Wベントの実施を想定する場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種別</th> <th rowspan="2">停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)</th> <th colspan="2">放出放射線量[Bq] (gross値)</th> </tr> <tr> <th>格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出</th> <th>原子炉建屋から大気中への放出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 2.6×10¹⁹</td><td>約 7.8×10¹⁸</td><td>約 1.3×10¹⁷</td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 3.4×10¹⁹</td><td>約 6.4×10¹⁸</td><td>約 7.5×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Cs類</td><td>約 1.3×10¹⁸</td><td>約 3.4×10¹⁷</td><td>約 4.0×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Te類</td><td>約 9.5×10¹⁸</td><td>約 2.4×10¹⁷</td><td>約 3.3×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ba類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 2.3×10¹⁷</td><td>約 3.0×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ru類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 3.7×10¹⁷</td><td>約 5.0×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ce類</td><td>約 8.9×10¹⁹</td><td>約 3.0×10¹⁷</td><td>約 4.1×10¹⁶</td></tr> <tr><td>La類</td><td>約 6.5×10¹⁹</td><td>約 6.6×10¹⁷</td><td>約 8.8×10¹⁶</td></tr> </tbody> </table> <p>表3-2 大気中への放出放射線量（7日間積算値） (D/Wベントの実施を想定する場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種別</th> <th rowspan="2">停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)</th> <th colspan="2">放出放射線量[Bq] (gross値)</th> </tr> <tr> <th>格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出</th> <th>原子炉建屋から大気中への放出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 2.6×10¹⁹</td><td>約 6.6×10¹⁸</td><td>約 1.4×10¹⁷</td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 3.4×10¹⁹</td><td>約 6.1×10¹⁸</td><td>約 8.0×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Cs類</td><td>約 1.3×10¹⁸</td><td>約 5.1×10¹⁷</td><td>約 4.4×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Te類</td><td>約 9.5×10¹⁸</td><td>約 3.4×10¹⁷</td><td>約 3.6×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ba類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 3.4×10¹⁷</td><td>約 3.3×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ru類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 5.4×10¹⁷</td><td>約 5.5×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ce類</td><td>約 8.9×10¹⁹</td><td>約 4.3×10¹⁷</td><td>約 4.5×10¹⁶</td></tr> <tr><td>La類</td><td>約 6.5×10¹⁹</td><td>約 9.6×10¹⁷</td><td>約 9.7×10¹⁶</td></tr> </tbody> </table>	核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)	放出放射線量[Bq] (gross値)		格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出	原子炉建屋から大気中への放出	希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 7.8×10 ¹⁸	約 1.3×10 ¹⁷	よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 6.4×10 ¹⁸	約 7.5×10 ¹⁶	Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 3.4×10 ¹⁷	約 4.0×10 ¹⁶	Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 2.4×10 ¹⁷	約 3.3×10 ¹⁶	Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 2.3×10 ¹⁷	約 3.0×10 ¹⁶	Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 3.7×10 ¹⁷	約 5.0×10 ¹⁶	Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 3.0×10 ¹⁷	約 4.1×10 ¹⁶	La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 6.6×10 ¹⁷	約 8.8×10 ¹⁶	核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)	放出放射線量[Bq] (gross値)		格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出	原子炉建屋から大気中への放出	希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 6.6×10 ¹⁸	約 1.4×10 ¹⁷	よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 6.1×10 ¹⁸	約 8.0×10 ¹⁶	Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 5.1×10 ¹⁷	約 4.4×10 ¹⁶	Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 3.4×10 ¹⁷	約 3.6×10 ¹⁶	Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 3.4×10 ¹⁷	約 3.3×10 ¹⁶	Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 5.4×10 ¹⁷	約 5.5×10 ¹⁶	Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 4.3×10 ¹⁷	約 4.5×10 ¹⁶	La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 9.6×10 ¹⁷	約 9.7×10 ¹⁶	<p>表2-1 大気中への放出放射線量（7日間積算値） (W/Wベントの実施を想定する場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種別</th> <th rowspan="2">停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)</th> <th colspan="2">放出放射線量[Bq] (gross値)</th> </tr> <tr> <th>格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出</th> <th>原子炉建屋から大気中への放出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 2.6×10¹⁹</td><td>約 7.8×10¹⁸</td><td>約 1.3×10¹⁷</td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 3.4×10¹⁹</td><td>約 6.4×10¹⁸</td><td>約 7.5×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Cs類</td><td>約 1.3×10¹⁸</td><td>約 3.4×10¹⁷</td><td>約 4.0×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Te類</td><td>約 9.5×10¹⁸</td><td>約 2.4×10¹⁷</td><td>約 3.3×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ba類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 2.3×10¹⁷</td><td>約 3.0×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ru類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 3.7×10¹⁷</td><td>約 5.0×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ce類</td><td>約 8.9×10¹⁹</td><td>約 3.0×10¹⁷</td><td>約 4.1×10¹⁶</td></tr> <tr><td>La類</td><td>約 6.5×10¹⁹</td><td>約 6.6×10¹⁷</td><td>約 8.8×10¹⁶</td></tr> </tbody> </table> <p>表2-2 大気中への放出放射線量（7日間積算値） (D/Wベントの実施を想定する場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種別</th> <th rowspan="2">停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)</th> <th colspan="2">放出放射線量[Bq] (gross値)</th> </tr> <tr> <th>格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出</th> <th>原子炉建屋から大気中への放出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 2.6×10¹⁹</td><td>約 6.6×10¹⁸</td><td>約 1.4×10¹⁷</td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 3.4×10¹⁹</td><td>約 6.1×10¹⁸</td><td>約 8.0×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Cs類</td><td>約 1.3×10¹⁸</td><td>約 5.1×10¹⁷</td><td>約 4.4×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Te類</td><td>約 9.5×10¹⁸</td><td>約 3.4×10¹⁷</td><td>約 3.6×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ba類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 3.4×10¹⁷</td><td>約 3.3×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ru類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 5.4×10¹⁷</td><td>約 5.5×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ce類</td><td>約 8.9×10¹⁹</td><td>約 4.3×10¹⁷</td><td>約 4.5×10¹⁶</td></tr> <tr><td>La類</td><td>約 6.5×10¹⁹</td><td>約 9.6×10¹⁷</td><td>約 9.7×10¹⁶</td></tr> </tbody> </table> <p>表2-3 大気中への放出放射線量（7日間積算値） (代替循環冷却系により事象を収束することを想定する場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">核種別</th> <th rowspan="2">停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)</th> <th>放出放射線量[Bq] (gross値)</th> </tr> <tr> <th>原子炉建屋から大気中への放出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>希ガス類</td><td>約 2.6×10¹⁹</td><td>約 3.8×10¹⁷</td></tr> <tr><td>よう素類</td><td>約 3.4×10¹⁹</td><td>約 1.6×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Cs類</td><td>約 1.3×10¹⁸</td><td>約 3.9×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Te類</td><td>約 9.5×10¹⁸</td><td>約 2.9×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ba類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 2.8×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ru類</td><td>約 2.9×10¹⁹</td><td>約 4.6×10¹⁶</td></tr> <tr><td>Ce類</td><td>約 8.9×10¹⁹</td><td>約 3.5×10¹⁶</td></tr> <tr><td>La類</td><td>約 6.5×10¹⁹</td><td>約 8.2×10¹⁶</td></tr> </tbody> </table>	核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)	放出放射線量[Bq] (gross値)		格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出	原子炉建屋から大気中への放出	希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 7.8×10 ¹⁸	約 1.3×10 ¹⁷	よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 6.4×10 ¹⁸	約 7.5×10 ¹⁶	Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 3.4×10 ¹⁷	約 4.0×10 ¹⁶	Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 2.4×10 ¹⁷	約 3.3×10 ¹⁶	Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 2.3×10 ¹⁷	約 3.0×10 ¹⁶	Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 3.7×10 ¹⁷	約 5.0×10 ¹⁶	Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 3.0×10 ¹⁷	約 4.1×10 ¹⁶	La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 6.6×10 ¹⁷	約 8.8×10 ¹⁶	核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)	放出放射線量[Bq] (gross値)		格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出	原子炉建屋から大気中への放出	希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 6.6×10 ¹⁸	約 1.4×10 ¹⁷	よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 6.1×10 ¹⁸	約 8.0×10 ¹⁶	Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 5.1×10 ¹⁷	約 4.4×10 ¹⁶	Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 3.4×10 ¹⁷	約 3.6×10 ¹⁶	Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 3.4×10 ¹⁷	約 3.3×10 ¹⁶	Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 5.4×10 ¹⁷	約 5.5×10 ¹⁶	Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 4.3×10 ¹⁷	約 4.5×10 ¹⁶	La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 9.6×10 ¹⁷	約 9.7×10 ¹⁶	核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)	放出放射線量[Bq] (gross値)	原子炉建屋から大気中への放出	希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 3.8×10 ¹⁷	よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 1.6×10 ¹⁶	Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 3.9×10 ¹⁶	Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 2.9×10 ¹⁶	Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 2.8×10 ¹⁶	Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 4.6×10 ¹⁶	Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 3.5×10 ¹⁶	La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 8.2×10 ¹⁶	<ul style="list-style-type: none"> 記載の適正化 (図表番号の相違) 記載の適正化 (図表番号の相違) 評価条件の差異
核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)			放出放射線量[Bq] (gross値)																																																																																																																																																																																			
		格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出	原子炉建屋から大気中への放出																																																																																																																																																																																				
希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 7.8×10 ¹⁸	約 1.3×10 ¹⁷																																																																																																																																																																																				
よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 6.4×10 ¹⁸	約 7.5×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 3.4×10 ¹⁷	約 4.0×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 2.4×10 ¹⁷	約 3.3×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 2.3×10 ¹⁷	約 3.0×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 3.7×10 ¹⁷	約 5.0×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 3.0×10 ¹⁷	約 4.1×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 6.6×10 ¹⁷	約 8.8×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)	放出放射線量[Bq] (gross値)																																																																																																																																																																																					
		格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出	原子炉建屋から大気中への放出																																																																																																																																																																																				
希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 6.6×10 ¹⁸	約 1.4×10 ¹⁷																																																																																																																																																																																				
よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 6.1×10 ¹⁸	約 8.0×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 5.1×10 ¹⁷	約 4.4×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 3.4×10 ¹⁷	約 3.6×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 3.4×10 ¹⁷	約 3.3×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 5.4×10 ¹⁷	約 5.5×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 4.3×10 ¹⁷	約 4.5×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 9.6×10 ¹⁷	約 9.7×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)	放出放射線量[Bq] (gross値)																																																																																																																																																																																					
		格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出	原子炉建屋から大気中への放出																																																																																																																																																																																				
希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 7.8×10 ¹⁸	約 1.3×10 ¹⁷																																																																																																																																																																																				
よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 6.4×10 ¹⁸	約 7.5×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 3.4×10 ¹⁷	約 4.0×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 2.4×10 ¹⁷	約 3.3×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 2.3×10 ¹⁷	約 3.0×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 3.7×10 ¹⁷	約 5.0×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 3.0×10 ¹⁷	約 4.1×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 6.6×10 ¹⁷	約 8.8×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)	放出放射線量[Bq] (gross値)																																																																																																																																																																																					
		格納容器圧力逃がし装置及びよう素フィルタを経由した放出	原子炉建屋から大気中への放出																																																																																																																																																																																				
希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 6.6×10 ¹⁸	約 1.4×10 ¹⁷																																																																																																																																																																																				
よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 6.1×10 ¹⁸	約 8.0×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 5.1×10 ¹⁷	約 4.4×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 3.4×10 ¹⁷	約 3.6×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 3.4×10 ¹⁷	約 3.3×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 5.4×10 ¹⁷	約 5.5×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 4.3×10 ¹⁷	約 4.5×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 9.6×10 ¹⁷	約 9.7×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																				
核種別	停止時炉心蓄積量[Bq] (gross値)	放出放射線量[Bq] (gross値)																																																																																																																																																																																					
		原子炉建屋から大気中への放出																																																																																																																																																																																					
希ガス類	約 2.6×10 ¹⁹	約 3.8×10 ¹⁷																																																																																																																																																																																					
よう素類	約 3.4×10 ¹⁹	約 1.6×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																					
Cs類	約 1.3×10 ¹⁸	約 3.9×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																					
Te類	約 9.5×10 ¹⁸	約 2.9×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																					
Ba類	約 2.9×10 ¹⁹	約 2.8×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																					
Ru類	約 2.9×10 ¹⁹	約 4.6×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																					
Ce類	約 8.9×10 ¹⁹	約 3.5×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																					
La類	約 6.5×10 ¹⁹	約 8.2×10 ¹⁶																																																																																																																																																																																					

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考																								
	<p style="text-align: center;">表4-1 放射性物質の大気拡散評価条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実効放出継続時間</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 7号機格納容器圧力逃がし装置配管 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 7号機原子炉建屋 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 7号機主排気筒 相対濃度：10時間，相対線量：10時間 </td> <td>審査ガイドを参照</td> </tr> <tr> <td>放射性物質濃度の評価点</td> <td>着目方位を全方位（16方位）とし、放出点からの距離を10m刻みで変更した大気拡散評価を実施し、最大の評価結果を与える距離を選定。なお、評価点高さは、各放出源の高さと同じとする。</td> <td>大気拡散評価の評価結果が、作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定</td> </tr> <tr> <td>着目方位</td> <td>全方位</td> <td>大気拡散評価の評価結果が作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	実効放出継続時間	<ul style="list-style-type: none"> 7号機格納容器圧力逃がし装置配管 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 7号機原子炉建屋 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 7号機主排気筒 相対濃度：10時間，相対線量：10時間 	審査ガイドを参照	放射性物質濃度の評価点	着目方位を全方位（16方位）とし、放出点からの距離を10m刻みで変更した大気拡散評価を実施し、最大の評価結果を与える距離を選定。なお、評価点高さは、各放出源の高さと同じとする。	大気拡散評価の評価結果が、作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定	着目方位	全方位	大気拡散評価の評価結果が作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定	<p style="text-align: center;">表3-1 放射性物質の大気拡散評価条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実効放出継続時間</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 6号機格納容器圧力逃がし装置配管 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 6号機原子炉建屋 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 6号機主排気筒 相対濃度：10時間，相対線量：10時間 7号機原子炉建屋 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 7号機主排気筒 相対濃度：10時間，相対線量：10時間 </td> <td>審査ガイドを参照</td> </tr> <tr> <td>放射性物質濃度の評価点</td> <td>着目方位を全方位（16方位）とし、放出点からの距離を10m刻みで変更した大気拡散評価を実施し、最大の評価結果を与える距離を選定。なお、評価点高さは、各放出源の高さと同じとする。</td> <td>大気拡散評価の評価結果が、作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定</td> </tr> <tr> <td>着目方位</td> <td>全方位</td> <td>大気拡散評価の評価結果が作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	実効放出継続時間	<ul style="list-style-type: none"> 6号機格納容器圧力逃がし装置配管 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 6号機原子炉建屋 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 6号機主排気筒 相対濃度：10時間，相対線量：10時間 7号機原子炉建屋 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 7号機主排気筒 相対濃度：10時間，相対線量：10時間 	審査ガイドを参照	放射性物質濃度の評価点	着目方位を全方位（16方位）とし、放出点からの距離を10m刻みで変更した大気拡散評価を実施し、最大の評価結果を与える距離を選定。なお、評価点高さは、各放出源の高さと同じとする。	大気拡散評価の評価結果が、作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定	着目方位	全方位	大気拡散評価の評価結果が作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定	<p>・評価条件の差異</p>
	項目	評価条件	選定理由																								
	実効放出継続時間	<ul style="list-style-type: none"> 7号機格納容器圧力逃がし装置配管 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 7号機原子炉建屋 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 7号機主排気筒 相対濃度：10時間，相対線量：10時間 	審査ガイドを参照																								
	放射性物質濃度の評価点	着目方位を全方位（16方位）とし、放出点からの距離を10m刻みで変更した大気拡散評価を実施し、最大の評価結果を与える距離を選定。なお、評価点高さは、各放出源の高さと同じとする。	大気拡散評価の評価結果が、作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定																								
着目方位	全方位	大気拡散評価の評価結果が作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定																									
項目	評価条件	選定理由																									
実効放出継続時間	<ul style="list-style-type: none"> 6号機格納容器圧力逃がし装置配管 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 6号機原子炉建屋 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 6号機主排気筒 相対濃度：10時間，相対線量：10時間 7号機原子炉建屋 相対濃度：1時間，相対線量：1時間 7号機主排気筒 相対濃度：10時間，相対線量：10時間 	審査ガイドを参照																									
放射性物質濃度の評価点	着目方位を全方位（16方位）とし、放出点からの距離を10m刻みで変更した大気拡散評価を実施し、最大の評価結果を与える距離を選定。なお、評価点高さは、各放出源の高さと同じとする。	大気拡散評価の評価結果が、作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定																									
着目方位	全方位	大気拡散評価の評価結果が作業エリア全域に適用可能となるよう保守的に設定																									

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考																																		
	<p style="text-align: center;">表4-2 相対濃度及び相対線量</p> <table border="1" data-bbox="854 359 1460 554"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>放出点及び放出点高さ*</th> <th>相対濃度[s/m³]</th> <th>相対線量[Gy/Bq]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">屋内及び 屋外の 作業エリア</td> <td>7号機格納容器圧力逃がし装置配管 (地上39.7m)</td> <td>1.0×10⁻³</td> <td>7.4×10⁻¹⁸</td> </tr> <tr> <td>7号機原子炉建屋中心 (地上0m)</td> <td>2.1×10⁻³</td> <td>7.4×10⁻¹⁸</td> </tr> <tr> <td>7号機主排気筒 (地上73m)</td> <td>6.8×10⁻⁴</td> <td>4.9×10⁻¹⁸</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：放出点高さは、放出エネルギーによる影響は未考慮。</p>	評価点	放出点及び放出点高さ*	相対濃度[s/m ³]	相対線量[Gy/Bq]	屋内及び 屋外の 作業エリア	7号機格納容器圧力逃がし装置配管 (地上39.7m)	1.0×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸	7号機原子炉建屋中心 (地上0m)	2.1×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸	7号機主排気筒 (地上73m)	6.8×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻¹⁸	<p style="text-align: center;">表3-2 相対濃度及び相対線量</p> <table border="1" data-bbox="1507 359 2113 651"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>放出点及び放出点高さ*</th> <th>相対濃度[s/m³]</th> <th>相対線量[Gy/Bq]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">屋内及び 屋外の 作業エリア</td> <td>6号機格納容器圧力逃がし装置配管 (地上40.4m)</td> <td>1.0×10⁻³</td> <td>7.4×10⁻¹⁸</td> </tr> <tr> <td>6号機原子炉建屋中心 (地上0m)</td> <td>2.1×10⁻³</td> <td>7.4×10⁻¹⁸</td> </tr> <tr> <td>6号機主排気筒 (地上73m)</td> <td>6.8×10⁻⁴</td> <td>4.9×10⁻¹⁸</td> </tr> <tr> <td>7号機原子炉建屋中心 (地上0m)</td> <td>2.1×10⁻³</td> <td>7.4×10⁻¹⁸</td> </tr> <tr> <td>7号機主排気筒 (地上73m)</td> <td>6.8×10⁻⁴</td> <td>4.9×10⁻¹⁸</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：放出点高さは、放出エネルギーによる影響は未考慮。</p>	評価点	放出点及び放出点高さ*	相対濃度[s/m ³]	相対線量[Gy/Bq]	屋内及び 屋外の 作業エリア	6号機格納容器圧力逃がし装置配管 (地上40.4m)	1.0×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸	6号機原子炉建屋中心 (地上0m)	2.1×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸	6号機主排気筒 (地上73m)	6.8×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻¹⁸	7号機原子炉建屋中心 (地上0m)	2.1×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸	7号機主排気筒 (地上73m)	6.8×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻¹⁸	<p>・評価条件の差異</p>
	評価点	放出点及び放出点高さ*	相対濃度[s/m ³]	相対線量[Gy/Bq]																																	
	屋内及び 屋外の 作業エリア	7号機格納容器圧力逃がし装置配管 (地上39.7m)	1.0×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸																																	
		7号機原子炉建屋中心 (地上0m)	2.1×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸																																	
7号機主排気筒 (地上73m)		6.8×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻¹⁸																																		
評価点	放出点及び放出点高さ*	相対濃度[s/m ³]	相対線量[Gy/Bq]																																		
屋内及び 屋外の 作業エリア	6号機格納容器圧力逃がし装置配管 (地上40.4m)	1.0×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸																																		
	6号機原子炉建屋中心 (地上0m)	2.1×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸																																		
	6号機主排気筒 (地上73m)	6.8×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻¹⁸																																		
	7号機原子炉建屋中心 (地上0m)	2.1×10 ⁻³	7.4×10 ⁻¹⁸																																		
	7号機主排気筒 (地上73m)	6.8×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻¹⁸																																		

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考																																																																																														
	<p>表6-1 配管内、フィルタ内の線源強度の評価で用いる放射性物質の付着割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>測定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">配管内、フィルタ内の線源強度の評価で用いる放射性物質の付着割合</td> <td>【主配管（フィルタ装置入口側）】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10%/100m 粒子状放射性物質：10%/100m</td> <td>NUREG/CR-4551*を参照し、付着量を設定する主要なパラメータとして沈着速度に着目して、配管内面への沈着割合を設定。 配管100m当たり、配管に流入する放射性物質の10%が付着するものとした。</td> </tr> <tr> <td>【ドレン移送ライン及びpH計装配管】 事故発生7日後までに格納容器圧力逃がし装置に流入する無機よう素及び粒子状放射性物質の総量を、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量（35m³と仮定）で除した濃度の水を内包すると想定</td> <td>ドレン移送ライン及びpH計装配管ともに、フィルタ装置水位調整（水抜き）後に水を内包する設備であるため、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量を基準に濃度を設定</td> </tr> <tr> <td>【スクラバ水】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：100%</td> <td>フィルタ内の線源強度を保守的に見積もるために、設計上フィルタで除去できる放射性物質については、事故発生7日後までにフィルタに流入する全量が付着するものとした。なお、フィルタへの流入量の評価に当たっては、配管内への付着による放射性物質の除去効果を考慮しないものとした。ただし、金属フィルタについては、スクラバ水で大部分が除去された後の粒子状放射性物質が付着する設計であることを踏まえた付着率を設定した。</td> </tr> <tr> <td>【金属フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10% 粒子状放射性物質：10%</td> <td>なお、よう素フィルタと金属フィルタについて、設計では除去を考慮しない無機よう素も保守的に付着すると仮定した。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【よう素フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：100% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：0%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：NUREG/CR-4551 Vol.2 "Evaluation of Severe Accident Risks: Quantification of Major Input Parameters"</p> <p>表6-2 各現場作業*1でドレン移送ライン及びpH計装配管に近接する時間として評価上想定する時間*2</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業</th> <th>線源</th> <th>近接する時間</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">フィルタ装置 水位調整（水抜き）</td> <td>ドレン移送ライン</td> <td>1班：1分 2班：1分</td> <td>ドレン移送ラインの弁操作で近接する</td> </tr> <tr> <td>pH計装配管</td> <td>1班：1分30秒 2班：1分30秒</td> <td>ドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">フィルタ装置 スクラバ水 pH調整</td> <td>ドレン移送ライン</td> <td>1班：0分 2班：0分 3班：0分 4班：0分</td> <td>近接しない</td> </tr> <tr> <td>pH計装配管</td> <td>1班：2分30秒 2班：2分30秒 3班：0分 4班：0分</td> <td>サンプリングポンプの系統構成・復旧等のため、附室内に入り近接する</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ドレン移送ライン 窒素ガスバージ</td> <td>ドレン移送ライン</td> <td>1班：0分 2班：0分 3班：0分</td> <td>近接しない</td> </tr> <tr> <td>pH計装配管</td> <td>1班：0分 2班：0分 3班：0分</td> <td>近接しない</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ドレンタンク 水抜き</td> <td>ドレン移送ライン</td> <td>1班：1分 2班：1分</td> <td>ドレン移送ラインの弁操作で近接する</td> </tr> <tr> <td>pH計装配管</td> <td>1班：2分30秒 2班：2分30秒</td> <td>系統構成・復旧やドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：ベント後の作業が対象となる。 *2：作業内容を基に仮定した。</p>	項目	評価条件	測定理由	配管内、フィルタ内の線源強度の評価で用いる放射性物質の付着割合	【主配管（フィルタ装置入口側）】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10%/100m 粒子状放射性物質：10%/100m	NUREG/CR-4551*を参照し、付着量を設定する主要なパラメータとして沈着速度に着目して、配管内面への沈着割合を設定。 配管100m当たり、配管に流入する放射性物質の10%が付着するものとした。	【ドレン移送ライン及びpH計装配管】 事故発生7日後までに格納容器圧力逃がし装置に流入する無機よう素及び粒子状放射性物質の総量を、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量（35m ³ と仮定）で除した濃度の水を内包すると想定	ドレン移送ライン及びpH計装配管ともに、フィルタ装置水位調整（水抜き）後に水を内包する設備であるため、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量を基準に濃度を設定	【スクラバ水】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：100%	フィルタ内の線源強度を保守的に見積もるために、設計上フィルタで除去できる放射性物質については、事故発生7日後までにフィルタに流入する全量が付着するものとした。なお、フィルタへの流入量の評価に当たっては、配管内への付着による放射性物質の除去効果を考慮しないものとした。ただし、金属フィルタについては、スクラバ水で大部分が除去された後の粒子状放射性物質が付着する設計であることを踏まえた付着率を設定した。	【金属フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10% 粒子状放射性物質：10%	なお、よう素フィルタと金属フィルタについて、設計では除去を考慮しない無機よう素も保守的に付着すると仮定した。		【よう素フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：100% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：0%		作業	線源	近接する時間	備考	フィルタ装置 水位調整（水抜き）	ドレン移送ライン	1班：1分 2班：1分	ドレン移送ラインの弁操作で近接する	pH計装配管	1班：1分30秒 2班：1分30秒	ドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する	フィルタ装置 スクラバ水 pH調整	ドレン移送ライン	1班：0分 2班：0分 3班：0分 4班：0分	近接しない	pH計装配管	1班：2分30秒 2班：2分30秒 3班：0分 4班：0分	サンプリングポンプの系統構成・復旧等のため、附室内に入り近接する	ドレン移送ライン 窒素ガスバージ	ドレン移送ライン	1班：0分 2班：0分 3班：0分	近接しない	pH計装配管	1班：0分 2班：0分 3班：0分	近接しない	ドレンタンク 水抜き	ドレン移送ライン	1班：1分 2班：1分	ドレン移送ラインの弁操作で近接する	pH計装配管	1班：2分30秒 2班：2分30秒	系統構成・復旧やドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する	<p>表4-1 配管内、フィルタ内の線源強度の評価で用いる放射性物質の付着割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>測定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">配管内、フィルタ内の線源強度の評価で用いる放射性物質の付着割合</td> <td>【主配管（フィルタ装置入口側）】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10%/100m 粒子状放射性物質：10%/100m</td> <td>NUREG/CR-4551*を参照し、付着量を設定する主要なパラメータとして沈着速度に着目して、配管内面への沈着割合を設定。 配管100m当たり、配管に流入する放射性物質の10%が付着するものとした。</td> </tr> <tr> <td>【ドレン移送ライン及びpH計装配管】 事故発生7日後までに格納容器圧力逃がし装置に流入する無機よう素及び粒子状放射性物質の総量を、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量（35m³と仮定）で除した濃度の水を内包すると想定</td> <td>ドレン移送ライン及びpH計装配管ともに、フィルタ装置水位調整（水抜き）後に水を内包する設備であるため、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量を基準に濃度を設定</td> </tr> <tr> <td>【スクラバ水】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：100%</td> <td>フィルタ内の線源強度を保守的に見積もるために、設計上フィルタで除去できる放射性物質については、事故発生7日後までにフィルタに流入する全量が付着するものとした。なお、フィルタへの流入量の評価に当たっては、配管内への付着による放射性物質の除去効果を考慮しないものとした。ただし、金属フィルタについては、スクラバ水で大部分が除去された後の粒子状放射性物質が付着する設計であることを踏まえた付着率を設定した。</td> </tr> <tr> <td>【金属フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10% 粒子状放射性物質：10%</td> <td>なお、よう素フィルタと金属フィルタについて、設計では除去を考慮しない無機よう素も保守的に付着すると仮定した。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【よう素フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：100% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：0%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：NUREG/CR-4551 Vol.2 "Evaluation of Severe Accident Risks: Quantification of Major Input Parameters"</p> <p>表4-2 各現場作業*1でドレン移送ライン及びpH計装配管に近接する時間として評価上想定する時間*2</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>作業</th> <th>線源</th> <th>近接する時間</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">フィルタ装置 水位調整（水抜き）</td> <td>ドレン移送ライン</td> <td>1班：1分 2班：1分</td> <td>ドレン移送ラインの弁操作で近接する</td> </tr> <tr> <td>pH計装配管</td> <td>1班：1分30秒 2班：1分30秒</td> <td>ドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">フィルタ装置 スクラバ水 pH調整</td> <td>ドレン移送ライン</td> <td>1班：0分 2班：0分 3班：0分 4班：0分</td> <td>近接しない</td> </tr> <tr> <td>pH計装配管</td> <td>1班：2分30秒 2班：2分30秒 3班：0分 4班：0分</td> <td>サンプリングポンプの系統構成・復旧等のため、附室内に入り近接する</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ドレン移送ライン 窒素ガスバージ</td> <td>ドレン移送ライン</td> <td>1班：0分 2班：0分 3班：0分</td> <td>近接しない</td> </tr> <tr> <td>pH計装配管</td> <td>1班：0分 2班：0分 3班：0分</td> <td>近接しない</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ドレンタンク 水抜き</td> <td>ドレン移送ライン</td> <td>1班：1分 2班：1分</td> <td>ドレン移送ラインの弁操作で近接する</td> </tr> <tr> <td>pH計装配管</td> <td>1班：2分30秒 2班：2分30秒</td> <td>系統構成・復旧やドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：ベント後の作業が対象となる。 *2：作業内容を基に仮定した。</p>	項目	評価条件	測定理由	配管内、フィルタ内の線源強度の評価で用いる放射性物質の付着割合	【主配管（フィルタ装置入口側）】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10%/100m 粒子状放射性物質：10%/100m	NUREG/CR-4551*を参照し、付着量を設定する主要なパラメータとして沈着速度に着目して、配管内面への沈着割合を設定。 配管100m当たり、配管に流入する放射性物質の10%が付着するものとした。	【ドレン移送ライン及びpH計装配管】 事故発生7日後までに格納容器圧力逃がし装置に流入する無機よう素及び粒子状放射性物質の総量を、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量（35m ³ と仮定）で除した濃度の水を内包すると想定	ドレン移送ライン及びpH計装配管ともに、フィルタ装置水位調整（水抜き）後に水を内包する設備であるため、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量を基準に濃度を設定	【スクラバ水】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：100%	フィルタ内の線源強度を保守的に見積もるために、設計上フィルタで除去できる放射性物質については、事故発生7日後までにフィルタに流入する全量が付着するものとした。なお、フィルタへの流入量の評価に当たっては、配管内への付着による放射性物質の除去効果を考慮しないものとした。ただし、金属フィルタについては、スクラバ水で大部分が除去された後の粒子状放射性物質が付着する設計であることを踏まえた付着率を設定した。	【金属フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10% 粒子状放射性物質：10%	なお、よう素フィルタと金属フィルタについて、設計では除去を考慮しない無機よう素も保守的に付着すると仮定した。		【よう素フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：100% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：0%		作業	線源	近接する時間	備考	フィルタ装置 水位調整（水抜き）	ドレン移送ライン	1班：1分 2班：1分	ドレン移送ラインの弁操作で近接する	pH計装配管	1班：1分30秒 2班：1分30秒	ドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する	フィルタ装置 スクラバ水 pH調整	ドレン移送ライン	1班：0分 2班：0分 3班：0分 4班：0分	近接しない	pH計装配管	1班：2分30秒 2班：2分30秒 3班：0分 4班：0分	サンプリングポンプの系統構成・復旧等のため、附室内に入り近接する	ドレン移送ライン 窒素ガスバージ	ドレン移送ライン	1班：0分 2班：0分 3班：0分	近接しない	pH計装配管	1班：0分 2班：0分 3班：0分	近接しない	ドレンタンク 水抜き	ドレン移送ライン	1班：1分 2班：1分	ドレン移送ラインの弁操作で近接する	pH計装配管	1班：2分30秒 2班：2分30秒	系統構成・復旧やドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する	<ul style="list-style-type: none"> 記載の適正化（図表番号の相違） 評価条件の差異【島根との差異】（島根2号機は、付着割合を設定すべき線源が1種類のため、本文中（6.（1）e.）に記載している。） 記載の適正化（図表番号の相違） 設備構成及び運用の差異【島根との差異】（島根2号機は、近接作業を想定していない。）
項目	評価条件	測定理由																																																																																															
配管内、フィルタ内の線源強度の評価で用いる放射性物質の付着割合	【主配管（フィルタ装置入口側）】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10%/100m 粒子状放射性物質：10%/100m	NUREG/CR-4551*を参照し、付着量を設定する主要なパラメータとして沈着速度に着目して、配管内面への沈着割合を設定。 配管100m当たり、配管に流入する放射性物質の10%が付着するものとした。																																																																																															
	【ドレン移送ライン及びpH計装配管】 事故発生7日後までに格納容器圧力逃がし装置に流入する無機よう素及び粒子状放射性物質の総量を、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量（35m ³ と仮定）で除した濃度の水を内包すると想定	ドレン移送ライン及びpH計装配管ともに、フィルタ装置水位調整（水抜き）後に水を内包する設備であるため、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量を基準に濃度を設定																																																																																															
	【スクラバ水】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：100%	フィルタ内の線源強度を保守的に見積もるために、設計上フィルタで除去できる放射性物質については、事故発生7日後までにフィルタに流入する全量が付着するものとした。なお、フィルタへの流入量の評価に当たっては、配管内への付着による放射性物質の除去効果を考慮しないものとした。ただし、金属フィルタについては、スクラバ水で大部分が除去された後の粒子状放射性物質が付着する設計であることを踏まえた付着率を設定した。																																																																																															
	【金属フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10% 粒子状放射性物質：10%	なお、よう素フィルタと金属フィルタについて、設計では除去を考慮しない無機よう素も保守的に付着すると仮定した。																																																																																															
	【よう素フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：100% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：0%																																																																																																
作業	線源	近接する時間	備考																																																																																														
フィルタ装置 水位調整（水抜き）	ドレン移送ライン	1班：1分 2班：1分	ドレン移送ラインの弁操作で近接する																																																																																														
	pH計装配管	1班：1分30秒 2班：1分30秒	ドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する																																																																																														
フィルタ装置 スクラバ水 pH調整	ドレン移送ライン	1班：0分 2班：0分 3班：0分 4班：0分	近接しない																																																																																														
	pH計装配管	1班：2分30秒 2班：2分30秒 3班：0分 4班：0分	サンプリングポンプの系統構成・復旧等のため、附室内に入り近接する																																																																																														
ドレン移送ライン 窒素ガスバージ	ドレン移送ライン	1班：0分 2班：0分 3班：0分	近接しない																																																																																														
	pH計装配管	1班：0分 2班：0分 3班：0分	近接しない																																																																																														
ドレンタンク 水抜き	ドレン移送ライン	1班：1分 2班：1分	ドレン移送ラインの弁操作で近接する																																																																																														
	pH計装配管	1班：2分30秒 2班：2分30秒	系統構成・復旧やドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する																																																																																														
項目	評価条件	測定理由																																																																																															
配管内、フィルタ内の線源強度の評価で用いる放射性物質の付着割合	【主配管（フィルタ装置入口側）】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10%/100m 粒子状放射性物質：10%/100m	NUREG/CR-4551*を参照し、付着量を設定する主要なパラメータとして沈着速度に着目して、配管内面への沈着割合を設定。 配管100m当たり、配管に流入する放射性物質の10%が付着するものとした。																																																																																															
	【ドレン移送ライン及びpH計装配管】 事故発生7日後までに格納容器圧力逃がし装置に流入する無機よう素及び粒子状放射性物質の総量を、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量（35m ³ と仮定）で除した濃度の水を内包すると想定	ドレン移送ライン及びpH計装配管ともに、フィルタ装置水位調整（水抜き）後に水を内包する設備であるため、フィルタ装置水位調整（水抜き）前のスクラバ水の水量を基準に濃度を設定																																																																																															
	【スクラバ水】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：100%	フィルタ内の線源強度を保守的に見積もるために、設計上フィルタで除去できる放射性物質については、事故発生7日後までにフィルタに流入する全量が付着するものとした。なお、フィルタへの流入量の評価に当たっては、配管内への付着による放射性物質の除去効果を考慮しないものとした。ただし、金属フィルタについては、スクラバ水で大部分が除去された後の粒子状放射性物質が付着する設計であることを踏まえた付着率を設定した。																																																																																															
	【金属フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：0% 無機よう素：10% 粒子状放射性物質：10%	なお、よう素フィルタと金属フィルタについて、設計では除去を考慮しない無機よう素も保守的に付着すると仮定した。																																																																																															
	【よう素フィルタ】 希ガス：0% 有機よう素：100% 無機よう素：100% 粒子状放射性物質：0%																																																																																																
作業	線源	近接する時間	備考																																																																																														
フィルタ装置 水位調整（水抜き）	ドレン移送ライン	1班：1分 2班：1分	ドレン移送ラインの弁操作で近接する																																																																																														
	pH計装配管	1班：1分30秒 2班：1分30秒	ドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する																																																																																														
フィルタ装置 スクラバ水 pH調整	ドレン移送ライン	1班：0分 2班：0分 3班：0分 4班：0分	近接しない																																																																																														
	pH計装配管	1班：2分30秒 2班：2分30秒 3班：0分 4班：0分	サンプリングポンプの系統構成・復旧等のため、附室内に入り近接する																																																																																														
ドレン移送ライン 窒素ガスバージ	ドレン移送ライン	1班：0分 2班：0分 3班：0分	近接しない																																																																																														
	pH計装配管	1班：0分 2班：0分 3班：0分	近接しない																																																																																														
ドレンタンク 水抜き	ドレン移送ライン	1班：1分 2班：1分	ドレン移送ラインの弁操作で近接する																																																																																														
	pH計装配管	1班：2分30秒 2班：2分30秒	系統構成・復旧やドレンポンプ操作のため附室内に入り近接する																																																																																														

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考																																										
<div style="border: 2px solid black; height: 100%; width: 100%;"></div>	<p style="text-align: center;">表 7-1 線量換算係数、呼吸率、防護措置及び地表面への沈着速度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 60%;">評価条件</th> <th style="width: 30%;">選定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>線量換算係数</td> <td> 成人実効線量換算係数使用 (主な核種を以下に示す) I-131: 2.0×10^{-8} Sv/Bq I-132: 3.1×10^{-10} Sv/Bq I-133: 4.0×10^{-9} Sv/Bq I-134: 1.5×10^{-10} Sv/Bq I-135: 9.2×10^{-10} Sv/Bq Cs-134: 2.0×10^{-8} Sv/Bq Cs-136: 2.8×10^{-9} Sv/Bq Cs-137: 3.9×10^{-8} Sv/Bq 上述の核種以外の核種は ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく </td> <td>ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく</td> </tr> <tr> <td>呼吸率</td> <td>1.2m³/h</td> <td>安全評価審査指針*3に基づく成人活動時の呼吸率を設定</td> </tr> <tr> <td>マスクによる防護係数</td> <td>1000</td> <td>着用を考慮し、期待できる防護係数として設定した</td> </tr> <tr> <td>ヨウ素剤</td> <td>考慮しない</td> <td>保守的に考慮しないものとした</td> </tr> <tr> <td>防護服</td> <td>考慮しない</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>地表への沈着速度</td> <td> エアロゾル粒子: 0.5cm/s 無機よう素: 0.5cm/s 有機よう素: 1.7×10^{-3} cm/s 希ガス: 沈着なし </td> <td>湿性沈着を考慮し設定</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: ICRP Publication 71, "Age-dependent Doses to Members of the Public from Intake of Radionuclides - Part 4 Inhalation Dose Coefficients", 1995 *2: ICRP Publication 72, "Age-dependent Doses to the Members of the Public from Intake of Radionuclides - Part 5 Compilation of Ingestion and Inhalation Coefficients", 1996 *3: 「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」平成2年8月30日 原子力安全委員会決定、平成13年3月29日一部改訂</p>	項目	評価条件	選定理由	線量換算係数	成人実効線量換算係数使用 (主な核種を以下に示す) I-131: 2.0×10^{-8} Sv/Bq I-132: 3.1×10^{-10} Sv/Bq I-133: 4.0×10^{-9} Sv/Bq I-134: 1.5×10^{-10} Sv/Bq I-135: 9.2×10^{-10} Sv/Bq Cs-134: 2.0×10^{-8} Sv/Bq Cs-136: 2.8×10^{-9} Sv/Bq Cs-137: 3.9×10^{-8} Sv/Bq 上述の核種以外の核種は ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく	ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく	呼吸率	1.2m ³ /h	安全評価審査指針*3に基づく成人活動時の呼吸率を設定	マスクによる防護係数	1000	着用を考慮し、期待できる防護係数として設定した	ヨウ素剤	考慮しない	保守的に考慮しないものとした	防護服	考慮しない	同上	地表への沈着速度	エアロゾル粒子: 0.5cm/s 無機よう素: 0.5cm/s 有機よう素: 1.7×10^{-3} cm/s 希ガス: 沈着なし	湿性沈着を考慮し設定	<p style="text-align: center;">表 5-1 線量換算係数、呼吸率、防護措置及び地表面への沈着速度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 60%;">評価条件</th> <th style="width: 30%;">選定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>線量換算係数</td> <td> 成人実効線量換算係数使用 (主な核種を以下に示す) I-131: 2.0×10^{-8} Sv/Bq I-132: 3.1×10^{-10} Sv/Bq I-133: 4.0×10^{-9} Sv/Bq I-134: 1.5×10^{-10} Sv/Bq I-135: 9.2×10^{-10} Sv/Bq Cs-134: 2.0×10^{-8} Sv/Bq Cs-136: 2.8×10^{-9} Sv/Bq Cs-137: 3.9×10^{-8} Sv/Bq 上述の核種以外の核種は ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく </td> <td>ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく</td> </tr> <tr> <td>呼吸率</td> <td>1.2m³/h</td> <td>安全評価審査指針*3に基づく成人活動時の呼吸率を設定</td> </tr> <tr> <td>マスクによる防護係数</td> <td>1000</td> <td>着用を考慮し、期待できる防護係数として設定した</td> </tr> <tr> <td>ヨウ素剤</td> <td>考慮しない</td> <td>保守的に考慮しないものとした</td> </tr> <tr> <td>防護服</td> <td>考慮しない</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>地表への沈着速度</td> <td> エアロゾル粒子: 0.5cm/s 無機よう素: 0.5cm/s 有機よう素: 1.7×10^{-3} cm/s 希ガス: 沈着なし </td> <td>湿性沈着を考慮し設定</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1: ICRP Publication 71, "Age-dependent Doses to Members of the Public from Intake of Radionuclides - Part 4 Inhalation Dose Coefficients", 1995 *2: ICRP Publication 72, "Age-dependent Doses to the Members of the Public from Intake of Radionuclides - Part 5 Compilation of Ingestion and Inhalation Coefficients", 1996 *3: 「発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針」平成2年8月30日 原子力安全委員会決定、平成13年3月29日一部改訂</p>	項目	評価条件	選定理由	線量換算係数	成人実効線量換算係数使用 (主な核種を以下に示す) I-131: 2.0×10^{-8} Sv/Bq I-132: 3.1×10^{-10} Sv/Bq I-133: 4.0×10^{-9} Sv/Bq I-134: 1.5×10^{-10} Sv/Bq I-135: 9.2×10^{-10} Sv/Bq Cs-134: 2.0×10^{-8} Sv/Bq Cs-136: 2.8×10^{-9} Sv/Bq Cs-137: 3.9×10^{-8} Sv/Bq 上述の核種以外の核種は ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく	ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく	呼吸率	1.2m ³ /h	安全評価審査指針*3に基づく成人活動時の呼吸率を設定	マスクによる防護係数	1000	着用を考慮し、期待できる防護係数として設定した	ヨウ素剤	考慮しない	保守的に考慮しないものとした	防護服	考慮しない	同上	地表への沈着速度	エアロゾル粒子: 0.5cm/s 無機よう素: 0.5cm/s 有機よう素: 1.7×10^{-3} cm/s 希ガス: 沈着なし	湿性沈着を考慮し設定	<p>・記載の適正化 (図表番号の相違)</p>
	項目	評価条件	選定理由																																										
線量換算係数	成人実効線量換算係数使用 (主な核種を以下に示す) I-131: 2.0×10^{-8} Sv/Bq I-132: 3.1×10^{-10} Sv/Bq I-133: 4.0×10^{-9} Sv/Bq I-134: 1.5×10^{-10} Sv/Bq I-135: 9.2×10^{-10} Sv/Bq Cs-134: 2.0×10^{-8} Sv/Bq Cs-136: 2.8×10^{-9} Sv/Bq Cs-137: 3.9×10^{-8} Sv/Bq 上述の核種以外の核種は ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく	ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく																																											
呼吸率	1.2m ³ /h	安全評価審査指針*3に基づく成人活動時の呼吸率を設定																																											
マスクによる防護係数	1000	着用を考慮し、期待できる防護係数として設定した																																											
ヨウ素剤	考慮しない	保守的に考慮しないものとした																																											
防護服	考慮しない	同上																																											
地表への沈着速度	エアロゾル粒子: 0.5cm/s 無機よう素: 0.5cm/s 有機よう素: 1.7×10^{-3} cm/s 希ガス: 沈着なし	湿性沈着を考慮し設定																																											
項目	評価条件	選定理由																																											
線量換算係数	成人実効線量換算係数使用 (主な核種を以下に示す) I-131: 2.0×10^{-8} Sv/Bq I-132: 3.1×10^{-10} Sv/Bq I-133: 4.0×10^{-9} Sv/Bq I-134: 1.5×10^{-10} Sv/Bq I-135: 9.2×10^{-10} Sv/Bq Cs-134: 2.0×10^{-8} Sv/Bq Cs-136: 2.8×10^{-9} Sv/Bq Cs-137: 3.9×10^{-8} Sv/Bq 上述の核種以外の核種は ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく	ICRP Publication71*1及び ICRP Publication72*2に基づく																																											
呼吸率	1.2m ³ /h	安全評価審査指針*3に基づく成人活動時の呼吸率を設定																																											
マスクによる防護係数	1000	着用を考慮し、期待できる防護係数として設定した																																											
ヨウ素剤	考慮しない	保守的に考慮しないものとした																																											
防護服	考慮しない	同上																																											
地表への沈着速度	エアロゾル粒子: 0.5cm/s 無機よう素: 0.5cm/s 有機よう素: 1.7×10^{-3} cm/s 希ガス: 沈着なし	湿性沈着を考慮し設定																																											

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考																																																																																																																					
<p>表8-1 7号機のW/Pベント実施に伴う被ばく評価結果（単位：mSv）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価内容</th> <th colspan="2">ベント実施前の作業</th> <th colspan="2">ベント実施後の作業</th> </tr> <tr> <th>フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）</th> <th>二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）</th> <th>フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）</th> <th>二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋内に滞留する放射線物質による放射線被ばく</td> <td>約7.0×10⁵</td> <td>約6.4×10⁵</td> <td>約2.7×10⁵</td> <td>約5.5×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射線物質からの放射線被ばく</td> <td>約3.0×10⁵</td> <td>0.1以下</td> <td>約1.0×10⁵</td> <td>約2.7×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質の吸入</td> <td>約5.5×10⁵</td> <td>約6.4×10⁵</td> <td>約1.4×10⁵</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>放射性物質からの放射線被ばく</td> <td>約4.2×10⁵</td> <td>—*</td> <td>約2.3×10⁵</td> <td>約1.3×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質からの放射線被ばく</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>約2.9×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質からの放射線被ばく</td> <td>約1.3mSv</td> <td>約7.0mSv</td> <td>約38mSv</td> <td>1班：約30mSv 2班：約30mSv 3班：約30mSv 4班：約30mSv</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※1：被ばく線量が比較的大きくなる時間帯で作業を実施した場合の被ばく線量を記載 ※2：被ばく線量の内訳は、被ばく線量が最も大きい班について記載 ※3：ベント実施が原子炉建屋内に流入することによる影響は考慮しない。 ※4：マスク着用（PF1000）による防護効果を考慮する。 ※5：線源との間に十分な遮蔽があるため、影響は軽微であり、評価の対象外とした。</p>	評価内容	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業		フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）	フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）	原子炉建屋内に滞留する放射線物質による放射線被ばく	約7.0×10 ⁵	約6.4×10 ⁵	約2.7×10 ⁵	約5.5×10 ⁵	放射線物質からの放射線被ばく	約3.0×10 ⁵	0.1以下	約1.0×10 ⁵	約2.7×10 ⁵	放射性物質の吸入	約5.5×10 ⁵	約6.4×10 ⁵	約1.4×10 ⁵	0.1以下	放射性物質からの放射線被ばく	約4.2×10 ⁵	—*	約2.3×10 ⁵	約1.3×10 ⁵	放射性物質からの放射線被ばく	—*	—*	—*	約2.9×10 ⁵	放射性物質からの放射線被ばく	約1.3mSv	約7.0mSv	約38mSv	1班：約30mSv 2班：約30mSv 3班：約30mSv 4班：約30mSv	<p>表8-1 6号機のW/Pベント実施に伴う被ばく評価結果（7号機：代替標準冷却系により事象収束）（単位：mSv）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価内容</th> <th colspan="2">ベント実施前の作業</th> <th colspan="2">ベント実施後の作業</th> </tr> <tr> <th>フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）</th> <th>二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）</th> <th>フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）</th> <th>二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋内に滞留する放射線物質による放射線被ばく</td> <td>約7.5×10⁵</td> <td>約6.7×10⁵</td> <td>約4.1×10⁵</td> <td>約2.3×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射線物質からの放射線被ばく</td> <td>約1.1×10⁵</td> <td>0.1以下</td> <td>約1.2×10⁵</td> <td>約6.0×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質の吸入</td> <td>約6.1×10⁵</td> <td>約6.6×10⁵</td> <td>約1.5×10⁵</td> <td>約3.0×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質からの放射線被ばく</td> <td>約4.5×10⁵</td> <td>—*</td> <td>約2.7×10⁵</td> <td>約1.8×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質からの放射線被ばく</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>約4.5×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質からの放射線被ばく</td> <td>約1.4mSv</td> <td>約7.4mSv</td> <td>約45mSv</td> <td>1班：約39mSv 2班：約39mSv 3班：約39mSv 4班：約39mSv</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※1：被ばく線量が比較的大きくなる時間帯で作業を実施した場合の被ばく線量を記載 ※2：被ばく線量の内訳は、被ばく線量が最も大きい班について記載 ※3：ベント実施が原子炉建屋内に流入することによる影響は考慮しない。 ※4：マスク着用（PF1000）による防護効果を考慮する。 ※5：線源との間に十分な遮蔽があるため、影響は軽微であり、評価の対象外とした。 ※6：7号機原子炉建屋から放出された放射性物質による汚染は、保守的に屋外作業における被ばく線量を適用</p>	評価内容	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業		フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）	フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）	原子炉建屋内に滞留する放射線物質による放射線被ばく	約7.5×10 ⁵	約6.7×10 ⁵	約4.1×10 ⁵	約2.3×10 ⁵	放射線物質からの放射線被ばく	約1.1×10 ⁵	0.1以下	約1.2×10 ⁵	約6.0×10 ⁵	放射性物質の吸入	約6.1×10 ⁵	約6.6×10 ⁵	約1.5×10 ⁵	約3.0×10 ⁵	放射性物質からの放射線被ばく	約4.5×10 ⁵	—*	約2.7×10 ⁵	約1.8×10 ⁵	放射性物質からの放射線被ばく	—*	—*	—*	約4.5×10 ⁵	放射性物質からの放射線被ばく	約1.4mSv	約7.4mSv	約45mSv	1班：約39mSv 2班：約39mSv 3班：約39mSv 4班：約39mSv	<p>表8-1 6号機のW/Pベント実施に伴う被ばく評価結果（7号機：代替標準冷却系により事象収束）（単位：mSv）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価内容</th> <th colspan="2">ベント実施前の作業</th> <th colspan="2">ベント実施後の作業</th> </tr> <tr> <th>フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）</th> <th>二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）</th> <th>フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）</th> <th>二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋内に滞留する放射線物質による放射線被ばく</td> <td>約7.5×10⁵</td> <td>約6.7×10⁵</td> <td>約4.1×10⁵</td> <td>約2.3×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射線物質からの放射線被ばく</td> <td>約1.1×10⁵</td> <td>0.1以下</td> <td>約1.2×10⁵</td> <td>約6.0×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質の吸入</td> <td>約6.1×10⁵</td> <td>約6.6×10⁵</td> <td>約1.5×10⁵</td> <td>約3.0×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質からの放射線被ばく</td> <td>約4.5×10⁵</td> <td>—*</td> <td>約2.7×10⁵</td> <td>約1.8×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質からの放射線被ばく</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>約4.5×10⁵</td> </tr> <tr> <td>放射性物質からの放射線被ばく</td> <td>約1.4mSv</td> <td>約7.4mSv</td> <td>約45mSv</td> <td>1班：約39mSv 2班：約39mSv 3班：約39mSv 4班：約39mSv</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記※1：被ばく線量が比較的大きくなる時間帯で作業を実施した場合の被ばく線量を記載 ※2：被ばく線量の内訳は、被ばく線量が最も大きい班について記載 ※3：ベント実施が原子炉建屋内に流入することによる影響は考慮しない。 ※4：マスク着用（PF1000）による防護効果を考慮する。 ※5：線源との間に十分な遮蔽があるため、影響は軽微であり、評価の対象外とした。 ※6：7号機原子炉建屋から放出された放射性物質による汚染は、保守的に屋外作業における被ばく線量を適用</p>	評価内容	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業		フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）	フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）	原子炉建屋内に滞留する放射線物質による放射線被ばく	約7.5×10 ⁵	約6.7×10 ⁵	約4.1×10 ⁵	約2.3×10 ⁵	放射線物質からの放射線被ばく	約1.1×10 ⁵	0.1以下	約1.2×10 ⁵	約6.0×10 ⁵	放射性物質の吸入	約6.1×10 ⁵	約6.6×10 ⁵	約1.5×10 ⁵	約3.0×10 ⁵	放射性物質からの放射線被ばく	約4.5×10 ⁵	—*	約2.7×10 ⁵	約1.8×10 ⁵	放射性物質からの放射線被ばく	—*	—*	—*	約4.5×10 ⁵	放射性物質からの放射線被ばく	約1.4mSv	約7.4mSv	約45mSv	1班：約39mSv 2班：約39mSv 3班：約39mSv 4班：約39mSv	<p>・評価結果の差異</p>
		評価内容	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業																																																																																																																			
フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）		フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）																																																																																																																				
原子炉建屋内に滞留する放射線物質による放射線被ばく	約7.0×10 ⁵	約6.4×10 ⁵	約2.7×10 ⁵	約5.5×10 ⁵																																																																																																																				
放射線物質からの放射線被ばく	約3.0×10 ⁵	0.1以下	約1.0×10 ⁵	約2.7×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質の吸入	約5.5×10 ⁵	約6.4×10 ⁵	約1.4×10 ⁵	0.1以下																																																																																																																				
放射性物質からの放射線被ばく	約4.2×10 ⁵	—*	約2.3×10 ⁵	約1.3×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質からの放射線被ばく	—*	—*	—*	約2.9×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質からの放射線被ばく	約1.3mSv	約7.0mSv	約38mSv	1班：約30mSv 2班：約30mSv 3班：約30mSv 4班：約30mSv																																																																																																																				
評価内容	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業																																																																																																																					
	フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）	フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）																																																																																																																				
原子炉建屋内に滞留する放射線物質による放射線被ばく	約7.5×10 ⁵	約6.7×10 ⁵	約4.1×10 ⁵	約2.3×10 ⁵																																																																																																																				
放射線物質からの放射線被ばく	約1.1×10 ⁵	0.1以下	約1.2×10 ⁵	約6.0×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質の吸入	約6.1×10 ⁵	約6.6×10 ⁵	約1.5×10 ⁵	約3.0×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質からの放射線被ばく	約4.5×10 ⁵	—*	約2.7×10 ⁵	約1.8×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質からの放射線被ばく	—*	—*	—*	約4.5×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質からの放射線被ばく	約1.4mSv	約7.4mSv	約45mSv	1班：約39mSv 2班：約39mSv 3班：約39mSv 4班：約39mSv																																																																																																																				
評価内容	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業																																																																																																																					
	フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）	フィルタ装置 ドラフトライン の放射線量率 （原子炉建屋上） （二次冷却設備外）	二次冷却設備の 放射線量率 （二次冷却設備外）																																																																																																																				
原子炉建屋内に滞留する放射線物質による放射線被ばく	約7.5×10 ⁵	約6.7×10 ⁵	約4.1×10 ⁵	約2.3×10 ⁵																																																																																																																				
放射線物質からの放射線被ばく	約1.1×10 ⁵	0.1以下	約1.2×10 ⁵	約6.0×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質の吸入	約6.1×10 ⁵	約6.6×10 ⁵	約1.5×10 ⁵	約3.0×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質からの放射線被ばく	約4.5×10 ⁵	—*	約2.7×10 ⁵	約1.8×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質からの放射線被ばく	—*	—*	—*	約4.5×10 ⁵																																																																																																																				
放射性物質からの放射線被ばく	約1.4mSv	約7.4mSv	約45mSv	1班：約39mSv 2班：約39mSv 3班：約39mSv 4班：約39mSv																																																																																																																				

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考																																																																														
<p>青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異</p>	<p>表8-2 7号機のD/Rベント実施に伴う被ばく評価結果（単位：mSv）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価内容</th> <th colspan="2">ベント実施前の作業</th> <th colspan="2">ベント実施後の作業</th> </tr> <tr> <th>フィルタ装置 （原子炉建屋上） （二次冷却系除染外）</th> <th>二次冷却系 （二次冷却系除染外）</th> <th>フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）</th> <th>フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋内に滞留する放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</td> <td>約7.1×10⁻¹</td> <td>約6.5×10⁰</td> <td>約2.3×10⁰</td> <td>約3.3×10⁰</td> </tr> <tr> <td>放射線中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</td> <td>約9.1×10⁻¹</td> <td>0.1以下</td> <td>約1.0×10⁰</td> <td>約2.3×10⁰</td> </tr> <tr> <td>放射線物質を吸入することによる内部被ばく**</td> <td>約5.6×10⁻¹</td> <td>約6.5×10⁻¹</td> <td>約1.4×10⁰</td> <td>0.1以下</td> </tr> <tr> <td>作業中に発生した放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</td> <td>約4.2×10⁰</td> <td>—*</td> <td>約2.3×10⁰</td> <td>約5.0×10⁰</td> </tr> <tr> <td>フィルタ及び貯蔵内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>約5.3×10⁰</td> </tr> <tr> <td>被ばく線量</td> <td>約13mSv</td> <td>約7.5mSv</td> <td>約3mSv</td> <td>1班：約5mSv 2班：約6mSv 3班：約7mSv 4班：約8mSv</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：被ばく線量が比較的大きくなる時間帯で作業を実施した場合の被ばく線量を記載 *2：被ばく線量の内訳は、被ばく線量が最も大きい班について記載 *3：ベント流体が原子炉建屋内に流入することによる影響は考慮しない。 *4：マスク着用（PF1000）による防護効果を考慮する。 *5：線源との間に十分な遮蔽があるため、影響は軽微であり、評価の対象外とした。</p>	評価内容	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業		フィルタ装置 （原子炉建屋上） （二次冷却系除染外）	二次冷却系 （二次冷却系除染外）	フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）	フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）	原子炉建屋内に滞留する放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約7.1×10 ⁻¹	約6.5×10 ⁰	約2.3×10 ⁰	約3.3×10 ⁰	放射線中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約9.1×10 ⁻¹	0.1以下	約1.0×10 ⁰	約2.3×10 ⁰	放射線物質を吸入することによる内部被ばく**	約5.6×10 ⁻¹	約6.5×10 ⁻¹	約1.4×10 ⁰	0.1以下	作業中に発生した放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約4.2×10 ⁰	—*	約2.3×10 ⁰	約5.0×10 ⁰	フィルタ及び貯蔵内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	—*	—*	—*	約5.3×10 ⁰	被ばく線量	約13mSv	約7.5mSv	約3mSv	1班：約5mSv 2班：約6mSv 3班：約7mSv 4班：約8mSv	<p>表6-2 6号機のD/Rベント実施に伴う被ばく評価結果（単位：mSv）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価内容</th> <th colspan="2">ベント実施前の作業</th> <th colspan="2">ベント実施後の作業</th> </tr> <tr> <th>フィルタ装置 （原子炉建屋上） （二次冷却系除染外）</th> <th>二次冷却系 （二次冷却系除染外）</th> <th>フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）</th> <th>フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋内に滞留する放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</td> <td>約7.5×10⁰</td> <td>約6.8×10⁰</td> <td>約4.3×10⁰</td> <td>約9.6×10⁰</td> </tr> <tr> <td>放射線中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</td> <td>約1.1×10⁰</td> <td>0.1以下</td> <td>約1.2×10⁰</td> <td>約3.6×10⁰</td> </tr> <tr> <td>放射線物質を吸入することによる内部被ばく**</td> <td>約6.2×10⁻¹</td> <td>約6.8×10⁻¹</td> <td>約1.6×10⁰</td> <td>約1.3×10⁰</td> </tr> <tr> <td>作業中に発生した放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</td> <td>約4.5×10⁰</td> <td>—*</td> <td>約2.7×10⁰</td> <td>約7.3×10⁰</td> </tr> <tr> <td>フィルタ及び貯蔵内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>—*</td> <td>約5.2×10⁰</td> </tr> <tr> <td>被ばく線量</td> <td>約14mSv</td> <td>約7.5mSv</td> <td>約4mSv</td> <td>1班：約6mSv 2班：約6mSv 3班：約6mSv 4班：約6mSv</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：被ばく線量が比較的大きくなる時間帯で作業を実施した場合の被ばく線量を記載 *2：被ばく線量の内訳は、被ばく線量が最も大きい班について記載 *3：ベント流体が原子炉建屋内に流入することによる影響は考慮しない。 *4：マスク着用（PF1000）による防護効果を考慮する。 *5：線源との間に十分な遮蔽があるため、影響は軽微であり、評価の対象外とした。 *6：7号機原子炉建屋から放出された放射性物質による蓄積は、保守的に屋外作業における被ばく線量を適用</p>	評価内容	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業		フィルタ装置 （原子炉建屋上） （二次冷却系除染外）	二次冷却系 （二次冷却系除染外）	フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）	フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）	原子炉建屋内に滞留する放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約7.5×10 ⁰	約6.8×10 ⁰	約4.3×10 ⁰	約9.6×10 ⁰	放射線中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約1.1×10 ⁰	0.1以下	約1.2×10 ⁰	約3.6×10 ⁰	放射線物質を吸入することによる内部被ばく**	約6.2×10 ⁻¹	約6.8×10 ⁻¹	約1.6×10 ⁰	約1.3×10 ⁰	作業中に発生した放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約4.5×10 ⁰	—*	約2.7×10 ⁰	約7.3×10 ⁰	フィルタ及び貯蔵内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	—*	—*	—*	約5.2×10 ⁰	被ばく線量	約14mSv	約7.5mSv	約4mSv	1班：約6mSv 2班：約6mSv 3班：約6mSv 4班：約6mSv	<p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価結果の差異
	評価内容		ベント実施前の作業		ベント実施後の作業																																																																												
フィルタ装置 （原子炉建屋上） （二次冷却系除染外）		二次冷却系 （二次冷却系除染外）	フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）	フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）																																																																													
原子炉建屋内に滞留する放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約7.1×10 ⁻¹	約6.5×10 ⁰	約2.3×10 ⁰	約3.3×10 ⁰																																																																													
放射線中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約9.1×10 ⁻¹	0.1以下	約1.0×10 ⁰	約2.3×10 ⁰																																																																													
放射線物質を吸入することによる内部被ばく**	約5.6×10 ⁻¹	約6.5×10 ⁻¹	約1.4×10 ⁰	0.1以下																																																																													
作業中に発生した放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約4.2×10 ⁰	—*	約2.3×10 ⁰	約5.0×10 ⁰																																																																													
フィルタ及び貯蔵内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	—*	—*	—*	約5.3×10 ⁰																																																																													
被ばく線量	約13mSv	約7.5mSv	約3mSv	1班：約5mSv 2班：約6mSv 3班：約7mSv 4班：約8mSv																																																																													
評価内容	ベント実施前の作業		ベント実施後の作業																																																																														
	フィルタ装置 （原子炉建屋上） （二次冷却系除染外）	二次冷却系 （二次冷却系除染外）	フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）	フィルタ装置 （水抜き） （水抜き）																																																																													
原子炉建屋内に滞留する放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約7.5×10 ⁰	約6.8×10 ⁰	約4.3×10 ⁰	約9.6×10 ⁰																																																																													
放射線中の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約1.1×10 ⁰	0.1以下	約1.2×10 ⁰	約3.6×10 ⁰																																																																													
放射線物質を吸入することによる内部被ばく**	約6.2×10 ⁻¹	約6.8×10 ⁻¹	約1.6×10 ⁰	約1.3×10 ⁰																																																																													
作業中に発生した放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	約4.5×10 ⁰	—*	約2.7×10 ⁰	約7.3×10 ⁰																																																																													
フィルタ及び貯蔵内の放射性物質からのガンマ線による外部被ばく	—*	—*	—*	約5.2×10 ⁰																																																																													
被ばく線量	約14mSv	約7.5mSv	約4mSv	1班：約6mSv 2班：約6mSv 3班：約6mSv 4班：約6mSv																																																																													

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	 <p>図1-1 7号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋地下1階）</p>	 <p>図1-1 6号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋地下1階）</p>	
	 <p>図1-2 7号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋地下1階（中間階））</p>	 <p>図1-2 6号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋地下1階（中間階））</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設備構成の差異
			<ul style="list-style-type: none"> ・設備構成の差異

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
			
	<p>図1-3 7号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋2階）</p>	<p>図1-3 6号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋2階）</p>	<p>・設備構成の差異</p>
			
	<p>図1-4 7号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋3階（中間階））</p>	<p>図1-4 6号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋3階）</p>	<p>・設備構成の差異</p>
			
	<p>図1-5 7号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋3階（中間階））</p>	<p>図1-5 6号機屋内遮蔽壁等（原子炉建屋3階（中間階））</p>	<p>・設備構成の差異</p>
		<p>・設備構成の差異</p>	
<p>図1-6 7号機屋外作業場所</p>	<p>図1-6 6号機屋外作業場所</p>		

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
<p>（この欄は空欄です）</p>	<p>図1-6 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱（現場操作） タイムチャート （D/Wベントの場合）及び（D/Wベントの場合）</p>	<p>図2-1 格納容器圧力逃がし装置による原子炉格納容器内の減圧及び除熱（現場操作） タイムチャート （D/Wベントの場合）及び（D/Wベントの場合）</p>	<p>・記載の適正化 （図表番号の相違）</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
<div style="border: 2px solid black; height: 721px;"></div>	<p>図1-7 フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り タイムチャート</p> <p>図1-8 フィルタ装置水位調整（水抜き） タイムチャート</p>	<p>図2-2 フィルタ装置ドレン移送ポンプ水張り タイムチャート</p> <p>図2-3 フィルタ装置水位調整（水抜き） タイムチャート</p>	<p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載の適正化 (図表番号の相違)

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
<div style="border: 2px solid black; height: 100%; width: 100%;"></div>	<p>※ 大浜側高台保管場所への移動は、20分と想定する。</p>	<p>※ 大浜側高台保管場所への移動は、20分と想定する。</p>	<p>備考</p> <p>・記載の適正化 (図表番号の相違)</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

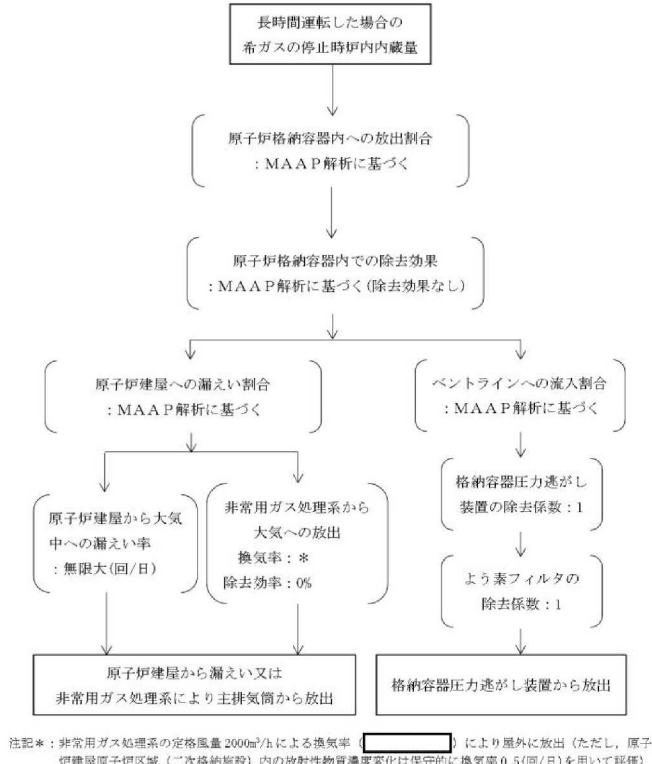
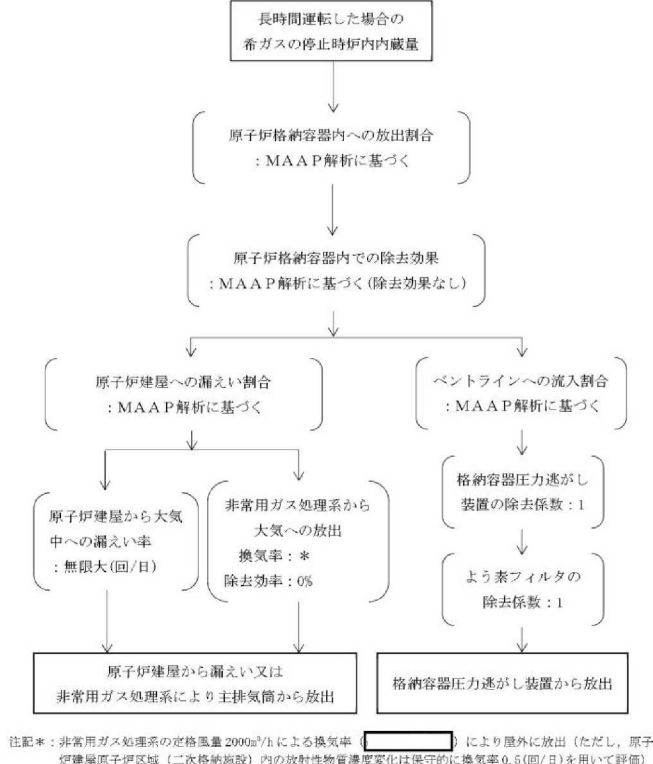
先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>図1-10 排水ライン空室ガスバース タイムチャート</p> <p>図1-11 Dレンタンク水抜き タイムチャート</p>	<p>図2-5 排水ライン空室ガスバース タイムチャート</p> <p>図2-6 Dレンタンク水抜き タイムチャート</p>	<p>・記載の適正化 (図表番号の相違)</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

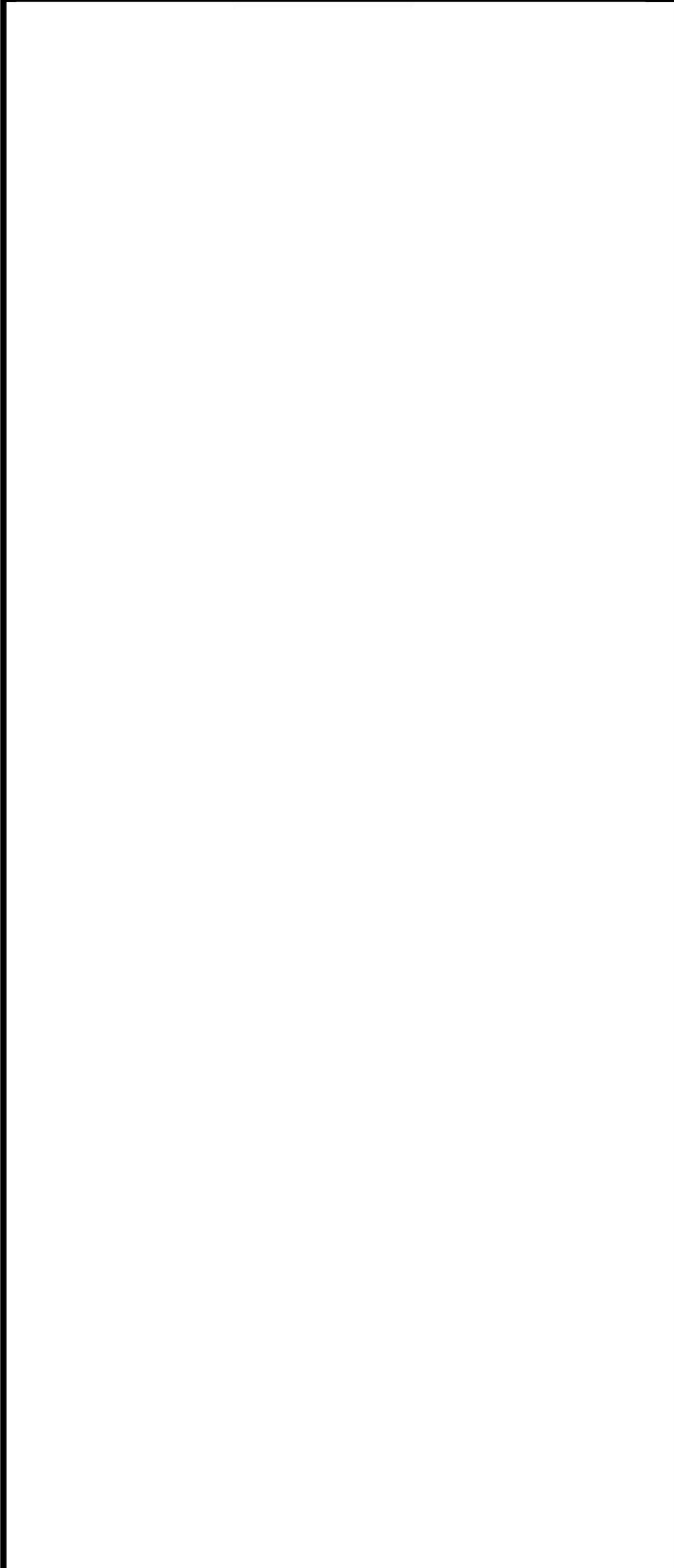
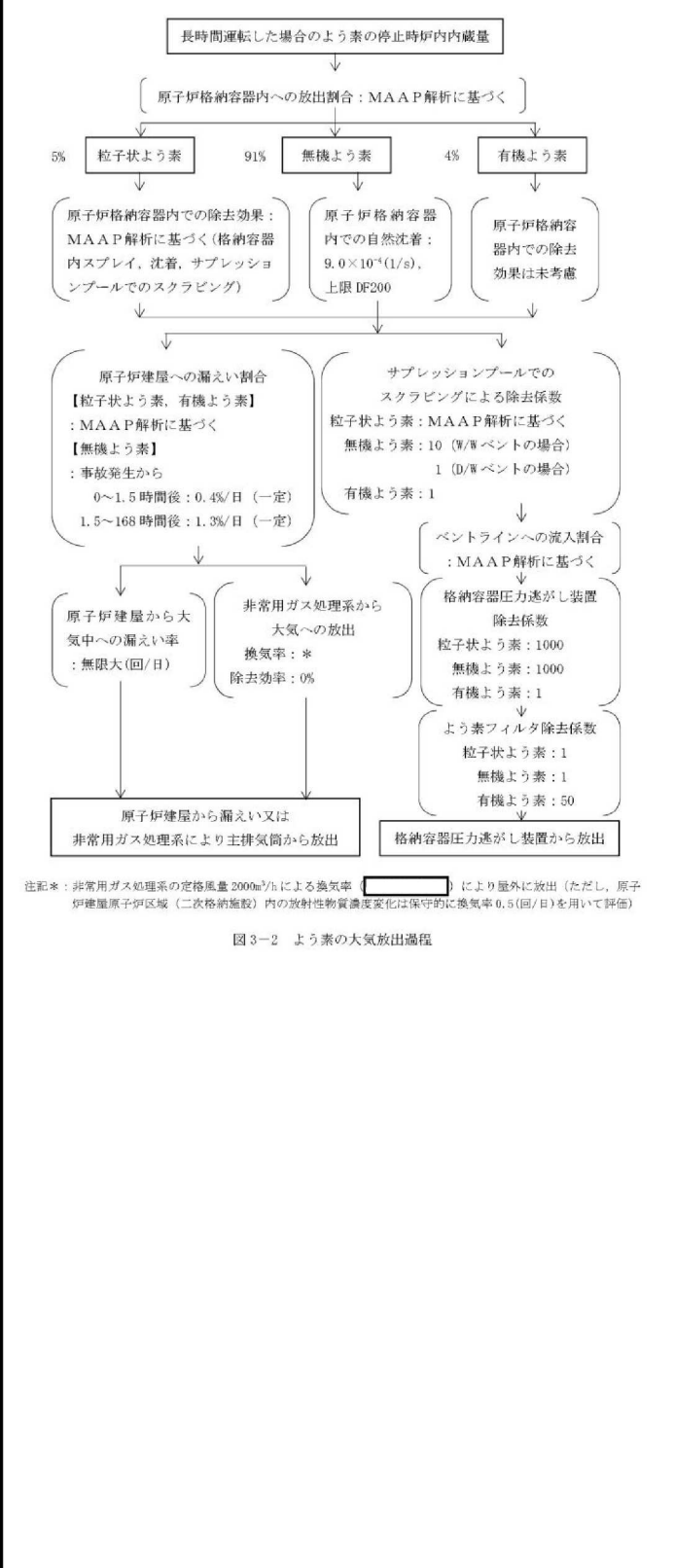
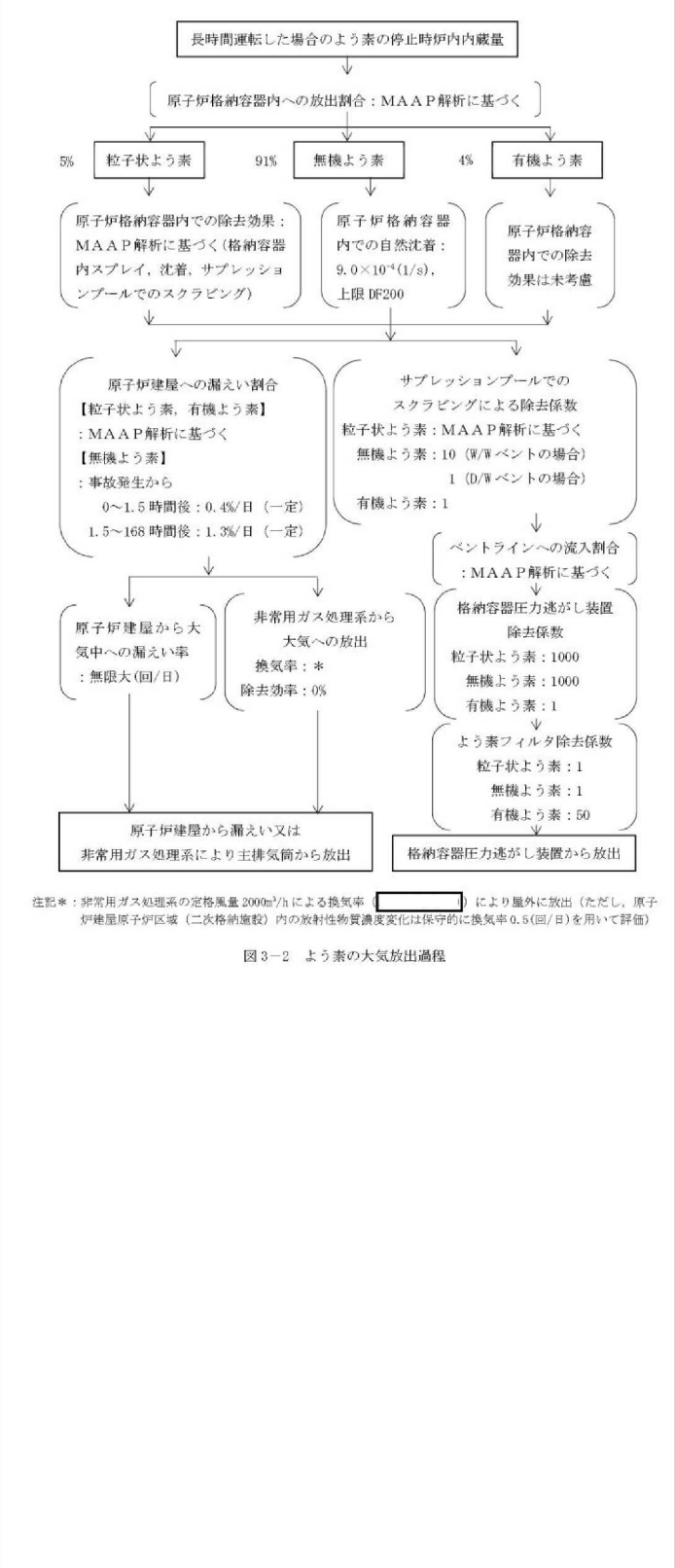
先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	 <p>図3-1 希ガスの大気放出過程</p> <p>注記*：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率 [] により屋外に放出（ただし、原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内の放射核種濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価）</p>	 <p>図3-1 希ガスの大気放出過程</p> <p>注記*：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率 [] により屋外に放出（ただし、原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内の放射核種濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価）</p>	<p>・差異なし</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表 (VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計)

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	 <p>図3-2 よう素の大気放出過程</p> <p>注記*：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率 [] により屋外に放出(ただし、原子炉建屋原子炉区域(二次格納施設)内の放射性物質濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価)</p>	 <p>図3-2 よう素の大気放出過程</p> <p>注記*：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率 [] により屋外に放出(ただし、原子炉建屋原子炉区域(二次格納施設)内の放射性物質濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価)</p>	<p>・差異なし</p>
	<p>青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異</p>		

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>注記*：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率 [] により屋外に放出（ただし、原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内の放射性物質濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価）</p> <p>図3-3 セシウムの大気放出過程</p>	<p>注記*：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率 [] により屋外に放出（ただし、原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内の放射性物質濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価）</p> <p>図3-3 セシウムの大気放出過程</p>	<p>・差異なし</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

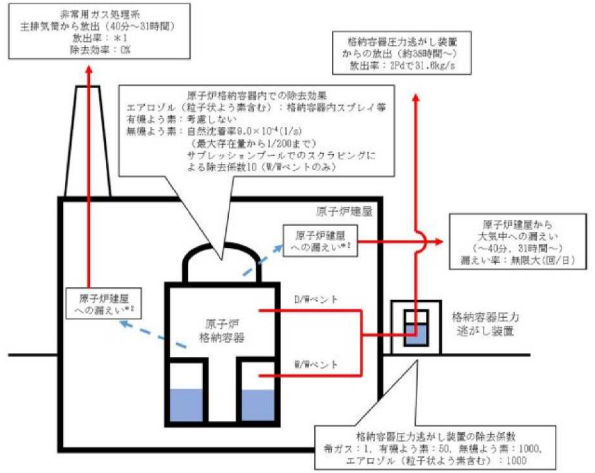
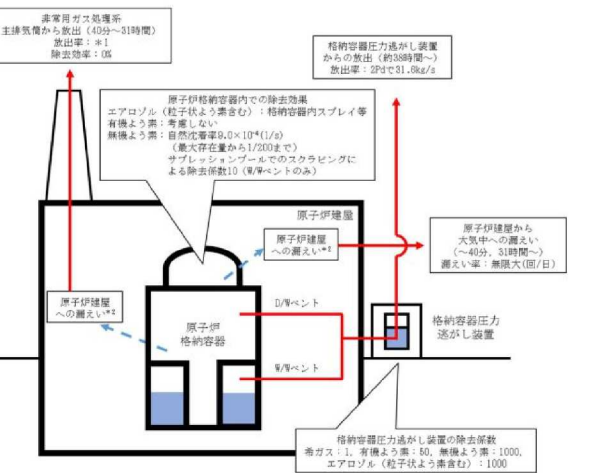
先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p>図3-4 その他核種の大気放出過程</p> <p>注記*：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率 [] により屋外に放出（ただし、原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内の放射性物質濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価）</p>	<p>図3-4 その他核種の大気放出過程</p> <p>注記*：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率 [] により屋外に放出（ただし、原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内の放射性物質濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価）</p>	<p>・差異なし</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

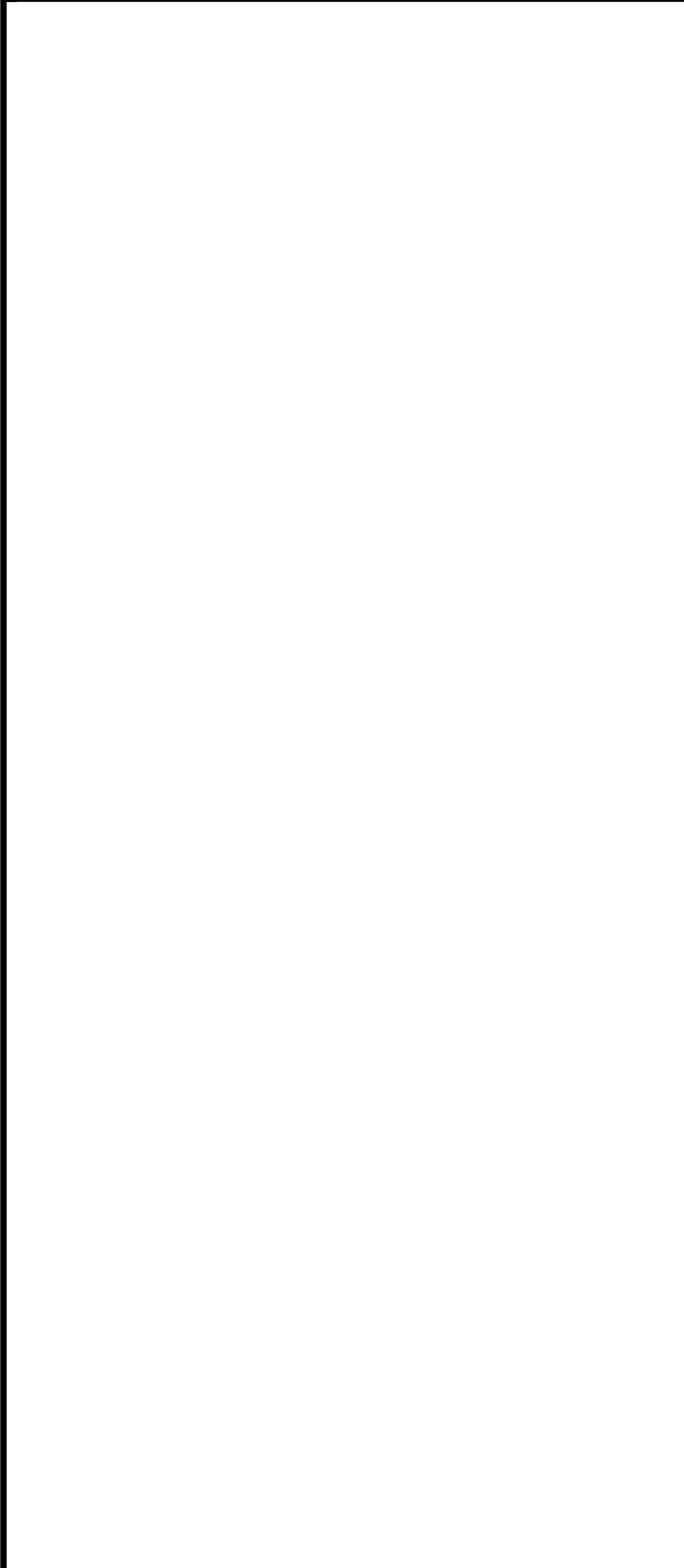
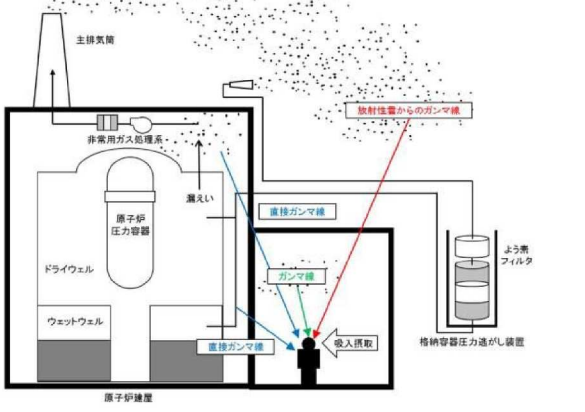
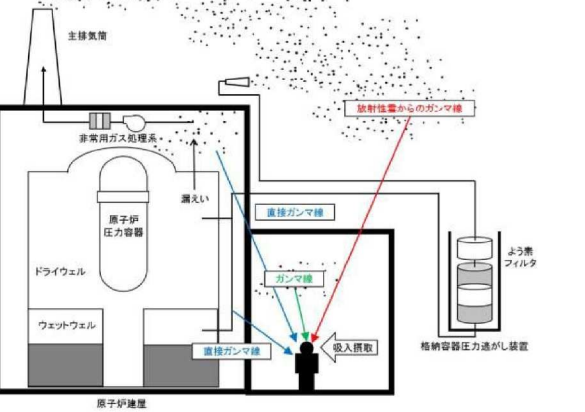
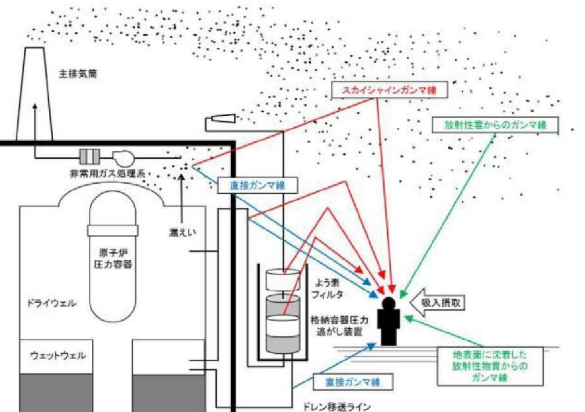
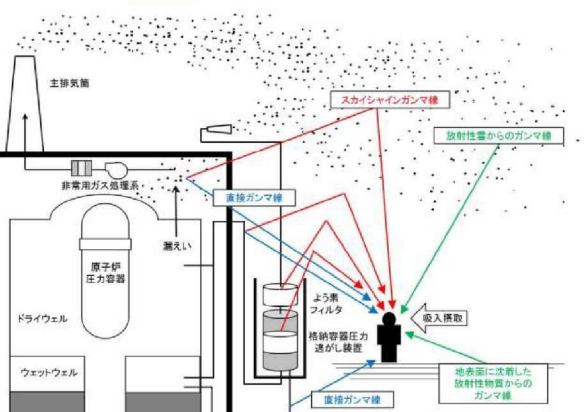
先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考																																																
	 <p>注記※1：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率（$\frac{1}{31}$）により屋外に放出（ただし、原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内の放射性物質濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価）</p> <p>※2：原子炉格納容器から原子炉建屋への漏えい率 【希ガス、エアロゾル（粒子状より濃含む）、有機よう薬】 1Pa以下：0.4%/日、1～2Pa：2.0Paで1.3%/日 【無機よう薬】 事故発生から1.5時間後まで：0.4%/日（一定）、1.5時間後以降：1.3%/日（一定）</p> <table border="1" data-bbox="884 903 1439 1008"> <tr> <td>大気への放出経路</td> <td>0時間</td> <td>▼40分^{※2}</td> <td>▼31時間</td> <td>▼38時間</td> <td>168時間</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋からの漏えい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系放出</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>格納容器ベント放出</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※3：非常用ガス処理系の起動により原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内は負圧となるため、事故発生40分から31時間の期間は原子炉建屋から大気中への漏えいはなくなる。</p> <p>図3-5 大気放出過程概略図（イメージ）</p>	大気への放出経路	0時間	▼40分 ^{※2}	▼31時間	▼38時間	168時間	原子炉建屋からの漏えい						非常用ガス処理系放出						格納容器ベント放出						 <p>注記※1：非常用ガス処理系の定格風量2000m³/hによる換気率（$\frac{1}{31}$）により屋外に放出（ただし、原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内の放射性物質濃度変化は保守的に換気率0.5(回/日)を用いて評価）</p> <p>※2：原子炉格納容器から原子炉建屋への漏えい率 【希ガス、エアロゾル（粒子状より濃含む）、有機よう薬】 1Pa以下：0.4%/日、1～2Pa：2.0Paで1.3%/日 【無機よう薬】 事故発生から1.5時間後まで：0.4%/日（一定）、1.5時間後以降：1.3%/日（一定）</p> <table border="1" data-bbox="1537 903 2092 1008"> <tr> <td>大気への放出経路</td> <td>0時間</td> <td>▼40分^{※2}</td> <td>▼31時間</td> <td>▼38時間</td> <td>168時間</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋からの漏えい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>非常用ガス処理系放出</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>格納容器ベント放出</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※3：非常用ガス処理系の起動により原子炉建屋原子炉区域（二次格納施設）内は負圧となるため、事故発生40分から31時間の期間は原子炉建屋から大気中への漏えいはなくなる。</p> <p>図3-5 大気放出過程概略図（イメージ）</p>	大気への放出経路	0時間	▼40分 ^{※2}	▼31時間	▼38時間	168時間	原子炉建屋からの漏えい						非常用ガス処理系放出						格納容器ベント放出						<p>・差異なし</p>
大気への放出経路	0時間	▼40分 ^{※2}	▼31時間	▼38時間	168時間																																														
原子炉建屋からの漏えい																																																			
非常用ガス処理系放出																																																			
格納容器ベント放出																																																			
大気への放出経路	0時間	▼40分 ^{※2}	▼31時間	▼38時間	168時間																																														
原子炉建屋からの漏えい																																																			
非常用ガス処理系放出																																																			
格納容器ベント放出																																																			

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	 <p>図 5-1 被ばく経路概念図（原子炉建屋内）</p>	 <p>図 4-1 被ばく経路概念図（原子炉建屋内）</p>	<p>・記載の適正化 （図表番号の相違）</p>
	 <p>図 5-2 被ばく経路概念図（原子炉建屋外）</p>	 <p>図 4-2 被ばく経路概念図（原子炉建屋外）</p>	

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

先行審査プラントの記載との比較表（VI-1-8-1-別添3 格納容器圧力逃がし装置の設計）

島根原子力発電所 第2号機	柏崎刈羽原子力発電所 第7号機	柏崎刈羽原子力発電所 第6号機	備考
	<p style="text-align: right;">別紙6</p> <p>フィルタ装置内スクラバ水のpH制御用NaOH水溶液の保有量について</p> <p>1. フィルタ装置スクラバ水pHの低下要因について 別紙4「スクラバ水の水位の設定根拠及び健全性について」より、フィルタ装置のスクラバ水pHが低下する要因は下記に大別される。</p> <p>① 原子炉格納容器内からフィルタ装置に移行する酸性物質による塩基の消費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルの熱分解及び放射線分解の塩化水素で消費される塩基量 約330mol ・無機よう素の捕集により消費される塩基量 約1.06mol <p>② スクラバ水をサブプレッションチェンバへ移送することによる塩基の消費*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上限水位から通常水位までのスクラバ水移送で失われる塩基量 約 [] mol <p>2. スクラバ水pH制御用水酸化ナトリウム水溶液の保有量について</p> <p>水酸化ナトリウム水溶液の保有量は、上記要因①、②を考慮して決定する。</p> <p>要因①は発生時期や量の予測が困難なことから、保有量の検討にあたっては要因①は考慮しない。</p> <p>よって、水酸化ナトリウムの保有量は、要因②による塩基消費を基に必要な量を算出し、かつ十分な余裕を考慮した容量を設定することとする。</p> <p>フィルタ装置の水位上昇に伴うスクラバ水の移送（要因②）については、事故後7日間で3回発生することを想定する。スクラバ水移送1回につき失われる約 [] molと同量を濃度20[wt%]の水酸化ナトリウム水溶液で補給する場合、補給1回当たりに必要な水酸化ナトリウム水溶液の量は [] Lとなることから、3回合計の必要量は [] Lとなる。</p> <p>よって水酸化ナトリウムの保有量は、上記の合計の [] Lに余裕を考慮し、1プラント当たり [] Lの6、7号機共用で [] L並びに予備 [] Lを保有することとする。</p> <p>注記*：ベントガス中の水蒸気凝縮に伴い、スクラバ水の水位が通常水位から上限水位まで上昇した場合、薬液濃度が0.61倍まで希釈される。また一方で、スクラバ水が上限水位に達する場合は、通常水位になるまでスクラバ水の水抜き（ドレン移送ポンプを用いたサブプレッションチェンバへの移送）を実施することとしている。この際にフィルタ装置内から失われる塩基は約 [] molとなる。</p>	<p style="text-align: right;">別紙6</p> <p><u>フィルタ装置内スクラバ水のpH制御用NaOH水溶液の保有量について</u></p> <p>1. フィルタ装置スクラバ水pHの低下要因について 別紙4「スクラバ水の水位の設定根拠及び健全性について」より、フィルタ装置のスクラバ水pHが低下する要因は下記に大別される。</p> <p>① 原子炉格納容器内からフィルタ装置に移行する酸性物質による塩基の消費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルの熱分解及び放射線分解の塩化水素で消費される塩基量 約330mol ・無機よう素の捕集により消費される塩基量 約1.06mol <p>② スクラバ水をサブプレッションチェンバへ移送することによる塩基の消費*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上限水位から通常水位までのスクラバ水移送で失われる塩基量 約 [] mol <p>2. スクラバ水pH制御用水酸化ナトリウム水溶液の保有量について</p> <p>水酸化ナトリウム水溶液の保有量は、上記要因①、②を考慮して決定する。</p> <p>要因①は発生時期や量の予測が困難なことから、保有量の検討にあたっては要因①は考慮しない。</p> <p>よって、水酸化ナトリウムの保有量は、要因②による塩基消費を基に必要な量を算出し、かつ十分な余裕を考慮した容量を設定することとする。</p> <p>フィルタ装置の水位上昇に伴うスクラバ水の移送（要因②）については、事故後7日間で3回発生することを想定する。スクラバ水移送1回につき失われる約 [] molと同量を濃度20[wt%]の水酸化ナトリウム水溶液で補給する場合、補給1回当たりに必要な水酸化ナトリウム水溶液の量は [] Lとなることから、3回合計の必要量は [] Lとなる。</p> <p>よって水酸化ナトリウムの保有量は、上記の合計の [] Lに余裕を考慮し、1プラント当たり [] Lの6、7号機共用で [] L並びに予備 [] Lを保有することとする。</p> <p>注記*：ベントガス中の水蒸気凝縮に伴い、スクラバ水の水位が通常水位から上限水位まで上昇した場合、薬液濃度が0.61倍まで希釈される。また一方で、スクラバ水が上限水位に達する場合は、通常水位になるまでスクラバ水の水抜き（ドレン移送ポンプを用いたサブプレッションチェンバへの移送）を実施することとしている。この際にフィルタ装置内から失われる塩基は約 [] molとなる。</p>	<p>・設計方針の差異【島根との差異】 （島根2号機は、補給設備を自主対策設備として位置付けている。）</p>

青字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所第2号機との差異

本資料のうち枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。